

東京放射線

2016年1月号

Vol.63 No.735



公益社団法人 東京都診療放射線技師会
<http://www.tart.jp/>

会 告
報
告
東京都功労者表彰

新春企画 平成28年新春企画 新春座談会

連 載
誌上講座 第4回 超音波

研修会等申込書

登録事項変更届

卷頭言 年頭所感 篠原健一

平成27年度第4・5・6回業務拡大に伴う統一講習会

第12地区研修会（第52回日暮里塾ワシコインセミナー合同開催）

平成27年度城南支部研修会

診療放射線技師 業務標準化宣言

いま我が国では「安心で安全な医療の提供」が国民から求められている。そして厚生医療の基本である「医療の質の向上」に向けて全ての医療職種が参加し、恒常に活動をする必要がある。

私達が携わる放射線技術及び医用画像技術を含む診療放射線技師業務全般についても、国民から信頼される普遍的な安全技術を用いて、公開しなくてはならない。そして近年、グローバルスタンダードの潮流として、EBM (Evidence Based Medicine)、インフォームドコンセント、リスクマネジメント、医療文化の醸成、地球環境保全なども重要な社会的要件となっている。

公益社団法人東京都診療放射線技師会では、『国民から信頼され選ばれる医療』の一員を目指し、診療放射線技師の役割を明確にするとともに、各種業務の標準化システム構築を宣言する。

診療放射線技師業務標準化には以下の項目が含まれるものとする。

1. ペイシェントケア
2. 技術、知識の利用
3. 被ばく管理（最適化／低減）
4. 品質管理
5. 機器管理（始終業点検／保守／メンテナンス）
6. 個人情報管理（守秘／保護／保管）
7. 教育（日常教育／訓練／生涯教育）
8. リスクマネジメント
 - ～患者識別
 - ～事故防止
 - ～感染防止
 - ～災害時対応
9. 環境マネジメント（地球環境保全）
10. 評価システムの構築

公益社団法人東京都診療放射線技師会

謹 賀 新 年

平成28年 元旦

1 本年もよろしくお願ひいたします

理事（総務）	石田 秀樹	理事（第六地区）	岡部 博之
理事（経理）	関 真一	委員長（第七地区）	富丸 佳一
理事（庶務）	野口 幸作	委員長（第八地区）	鎌田 治
会長	篠原 健一	理事（涉外）	高野 修彰
副会長	葛西 一隆	理事（編集）	浅沼 雅康
副会長	白木 尚	理事（学術教育）	市川 重司
監事	乙井不二夫	理事（広報）	高坂 知靖
監事	野田扇三郎	理事（厚生調査）	江田 哲男
顧問	橋本 宏	理事（情報）	安宅 里美
顧問	岩田 拓治	委員長（第一地区）	齊藤 謙一
顧問	中澤 靖夫	理事（第二地区）	内山 秀彦
理事（第五地区）	鈴木 雄一	委員長（第十三地区）	崎浜 秀幸
理事（第四地区）	竹安 直行	委員長（第十四地区）	鈴木 晋
事務局	引地 春枝	委員長（第十五地区）	中原 満
理事（第三地区）	平瀬 繁男	理事（第十六地区）	工藤 年男
理事（第二地区）	渡辺 靖志	委員長（災害対策）	

スローガン

チーム医療を推進し、
国民及び世界に貢献する
診療放射線技師の育成

2016年
JAN
CONTENTS

目 次

診療放射線技師のための接遇規範	1
謹賀新年	2
巻頭言 年頭所感	4
会告1 新春のつどい	5
会告2 平成27年度第4・5・6回業務拡大に伴う統一講習会	6
会告3 第12地区研修会（第52回日暮里塾ワンコインセミナー合同開催）	8
会告4 平成27年度城南支部研修会	9
会告5 第14回ウインターセミナー	10
会告6 第7回MRI集中講習会	11
会告7 平成27年度城西支部研修会	12
会告8 第53回日暮里塾ワンコインセミナー	13
会告9 平成27年度災害対策委員会研修会	14
お知らせ1 第11地区研修会	15
お知らせ2 第1地区研修会	16
お知らせ3 第2地区研修会	17
お知らせ4 東放技会員所属地区のご案内	18
東京都功労者表彰	19
連載 誌上講座 第4回 超音波	小原 和史 21
平成28年新春企画 新春座談会	26
こえ	
・第49回日暮里塾ワンコインセミナー「基礎からの一般撮影」に参加して	伊藤佳奈恵 35
・中央区健康福祉まつりに参加しました	栗屋浩介 36
・中央区健康福祉まつりに参加して	前野亜希子 37
・荒川クリーンエイド2015に参加して	中村浩英 38
・第6地区研修会を企画して	岡部博之 39
パイプライン	
・平成27年度東京都がん検診センター 第2回乳がん検診従事者講演会	40
・関東Angio研究会（第2回ステップアップセミナー）	42
・第7回ADCT研究会	43
・第39回日本脳神経CI学会総会	44
平成27年度第7回理事会報告	45
平成27年10月期会員動向	48
研修会等申込書	50
登録事項変更届	51

Column & Information

・イエローケーキ	34
・求人情報	35
・学術講演会・研修会等の開催予定	49

2016年の表紙

昨年は「エックス線発見120周年」の節目の年でした。本年は原点に戻り、エックス線写真のモノクロカラーを基調とした表紙の色に致しました。

本年もより一層のご支援を賜りますよう、心よりお願ひ申し上げます。

編集委員会

卷頭言



年頭所感

会長 篠原健一

平成28年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申しあげます。

平素は本会事業の推進につきまして、ご理解ご協力をいただき深く感謝申しあげます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

時間はアナログですが、年があけるとデジタルカウンターのように大きく数字がくりあがる感覚があります。東京オリンピックそして本会創立70周年まであと4年。一気に近づいたように感じます。オリンピック開催都市の職能団体としての使命もあると思っています。来年、再来年になったらやるべきこともありますが、4年後のためにいましておくべきことはなにかが重要です。

安倍晋三総理は、アベノミクス第2ステージ『新三本の矢』について「一億総活躍プラン」と銘打ち、第一の矢『希望を生み出す強い経済』、第二の矢『夢をつぐむ子育て支援』、第三の矢『安心につながる社会保障』を打ち出しました。スローガンとしては素晴らしいと思いますが、これらも場当たりな思いつきや事業仕分け、一時しのぎのばらまきでは解決しないことは過去の失政から自明のことだと思います。ハーバード大教授・アマルティア・セン氏は日経新聞の特集『戦後70年・これから世界』で、「日本経済はとても成功した。明治時代から教育に力を入れ識字能力を高めたことが土台にある。医療保険制度も重要だ。経済を優先し後から人道的な政策が緩やかに追いつくという、欧米型の経済発展をまねしなかったのが良かった」とかたっています。「日本が成功したのは伝統を持ちつつ現代化したからだ」とも。以前、卷頭言のなかで引用させていただいた“未来からの投影”や“応機肝要”など先達のことばも、時代をこえてかがやいています。

昨年は、「戦後70年」や「エックス線発見120周年」など大きな節目の年がありました。安全保障関連法案の可決や環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）の大筋合意など、世界の中の日本を考える転換点でもありました。今年は東日本大震災から5年をむかえます。私が本会をおあずかりする直前におきたことであり、任期の月日とかさなります。未来へむかう時間軸の一点を通りすぎながら、あきらめず懸命にたちむかうひとびとに勇気づけられ、われわれも努力してきたつもりです。法改正による「診療放射線技師の業務拡大」に伴う統一講習会についても昨年3回開催し、今年度中にあと3回開催することになっています。厚生労働省では診療放射線技師に限らず各職能団体の患者安全に対しての適切な教育・研修の実施状況、業務拡大によって日本の医療・チーム医療は良くなつたのかなどを検証する委員会を設置しています。これにより、更なる業務拡大への論議につながる可能性もあります。何よりも、患者さんの安心・安全のために公益社団法人として、首都東京の技師会としての使命をはたしてまいりたいと思っております。

診療放射線技師の近未来像として、検像や読影の補助、いわゆる一次読影の定義や質の担保、更なる業務範囲の拡大や疑義照会などの導入を視野に入れなければなりません。それには当然責任がともなうことの自覚も必要です。60年以上前にできた診療放射線技師法も時代にそぐわなくなっています。現在の高度な医療現場や他職種連携のチーム医療実践、診療放射線技師の有効な活用のためにも抜本的な改正が必要と考えます。

自分の国やふるさとを愛することと同じように、職能に誇りを持って愛すことができなければ、人を愛し患者さんに寄りそなうことはできません。それには資質、能力upに必要な教育の確保が必要です。診療放射線技師教育の四年制大学化と教育内容の見直しも必要です。

今年も、すばらしい年となりますよう心よりお祈り申しあげ、会員の皆さまの一層のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

会 告 1

「新春のつどい」のご案内

年初めの恒例となっております、本会主催による「新春のつどい」開催のご案内を申し上げます。

新春を迎えるにあたり、日頃ご交説をいただいております放射線関連・学校教育機構・関係諸団体・本技師会各位が一堂に会し、新年の抱負を語り、また、情報交換の場としてご歓談いただき、親交を深めていただきたいと存じます。お誘い合わせのうえ、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

開催日時：平成28年1月14日（木）

受付 18時00分～

開宴 18時30分～20時00分

開催場所：「ホテルラングウッド」飛翔の間

荒川区東日暮里5-50-5 Tel 03-3803-1234

JR日暮里駅南口下車 徒歩1分

次 第

- 1) 開会のことば
- 2) 会長挨拶
- 3) 来賓挨拶
- 4) 乾杯
- 5) 懇親（名刺交換）
- 6) 閉会の言葉



会 費：6,000円

新卒かつ新入会員の方は無料です。奮ってご参加ください。

申込方法：会誌の研修会等申込用紙にて、事務所にFAXでお申し込みください。

問い合わせ：公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



平成27年度第4・5・6回業務拡大に伴う統一講習会

主催：公益社団法人日本診療放射線技師会 実施：公益社団法人東京都診療放射線技師会

診療放射線技師法が平成26年6月18日に一部改正され、平成27年4月1日施行されました。具体的には、CT・MRI検査等での自動注入器による造影剤の注入、造影剤注入後の抜針・止血、下部消化管検査の実施（ネラトンチューブ挿入も含めて）、画像誘導放射線治療時の腸内ガスの吸引のためのチューブ挿入であり、診療放射線技師の業務内容が拡大しました。以上の業務を行うための条件として、医療の安全を担保することが求められています。この業務拡大に伴う必要な知識、技能、態度を習得することを目標とし、“業務拡大に伴う統一講習会”と称し、2日間にわたり実施することとしました。

本講習は厚生労働省と公益社団法人日本診療放射線技師会が検討したカリキュラムに従い、都道府県放射線技師会が講習会を運営し、一定レベルの講習会を全ての診療放射線技師が受講できる環境を提供することを目的としています。本会において今年度5回実施予定の4・5回目と、南関東地域での未決定分であった6回目を開催します。

記

第4回

日 時：平成28年1月16日（土）13時50分～17時30分（受付13時00分から）
平成28年1月17日（日）8時25分～17時10分

場 所：JR東京総合病院
〒151-8528 東京都渋谷区代々木2-1-3

アクセス：JR新宿駅南口より徒歩5分、JR代々木駅北口より徒歩5分

募集人数：60名

申込み期間：平成27年12月7日～平成28年1月2日

第5回

日 時：平成28年2月27日（土）13時50分～17時30分（受付13時00分から）
平成28年2月28日（日）8時25分～17時10分

場 所：東京通信病院 ※会場が変更になりました。
〒102-8798 東京都千代田区富士見2-14-23

アクセス：JR総武線 飯田橋駅西口より 徒歩5分

募集人数：60名

申込み期間：平成27年12月7日～平成28年2月13日

第6回

日 時：平成28年3月5日（土）13時50分～17時30分（受付13時00分から）
平成28年3月6日（日）8時25分～17時10分

場 所：公益社団法人 東京都診療放射線技師会研修センター
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

アクセス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

募集人数：54名

申込み期間：平成27年12月7日～平成28年2月20日

受講料：会員 15,000円、非会員 60,000円

但し、各種講習受講者減免として

会員 静脈受講者：13,000円、注腸受講者：5,000円、静脈注腸受講者：3,000円

非会員 静脈受講者：50,000円、注腸受講者：35,000円、静脈注腸受講者：15,000円

注）今回は、静脈注射（針刺しは除く）講習会受講者のみを受講対象とします

申込方法：JART情報システム内のイベント申込メニューから申し込むこと

注）東放技事務局および東放技HPからのお申し込みはできません

受講料振込等：申し込み後、日放技より振込み先の案内があります

講習会修了基準：次のいずれかに該当する場合は、修了とみなしません

ア) 講習時間15単位（1単位50分）に対し、欠課の合計時間が45分を超えた場合

イ) 欠課が15分を超えたコマが1つ以上あった場合

生涯学習カウント：修了者は日本診療放射線技師会生涯教育カウントが付与されます

以上

プログラム

第1日目（土）

時限	時 間		内 容	
	13:50～14:00	10	オリエンテーション	——
1	14:00～14:50	50	下部消化管 1	講義（DVD 聴講）
2	14:50～15:40	50	下部消化管 2	講義（DVD 聴講）
3	15:50～16:40	50	下部消化管 3	講義（DVD 聴講）
4	16:40～17:30	50	下部消化管 4	講義（DVD 聴講）

第2日目（日）

	8:25～ 8:30	5	オリエンテーション	——
5	8:30～ 9:20	50	IGRT1	講義（DVD 聴講）
6	9:20～10:10	50	IGRT2	講義（DVD 聴講）
7	10:20～11:10	50	IGRT3	講義（DVD 聴講）
8	11:10～12:00	50	法改正	講義（DVD 聴講）
	12:00～13:00	60	昼休み	——
9	13:00～14:00	60	BLS	実習
10	14:10～15:00	50	下部実習	実習
11	15:00～15:50	50	IGRT 実習	実習
12	16:00～16:50	50	確認試験	試験
	17:00～17:10	10	修了式	

会 告

3

第12地区研修会

第52回日暮里塾ワンコインセミナー 合同開催

今回の第12地区研修会は第52回日暮里塾ワンコインセミナーと合同で、テーマ「高速撮影」で開催します。第12地区の中核病院である東大和附属病院セントラルクリニックが開院して1年が経ちました。最新鋭の3.0TMRIおよび320列CTを有し、高度な画像を提供しています。一般的には1.5TMRIや64列CTが主流ですが高磁場、多配列になることで何が変わらるのか？ CTのスキャンスピードとノイズの関係は？ MRIのパラレルイメージングの基礎から応用のCAIPIRINHAまでを日頃、東大和病院で活躍している診療放射線技師の方々からお話をいただきます。皆さまの参加をお待ちしております。

プログラム

19:00～19:10 入会促進のお話し

19:10～19:30 RSNA報告

19:30～20:30 「高速撮影～3T MRI & 320列CT～」

講師 CT編 東大和病院 高橋雄大 氏
MRI編 東大和病院 野口茂樹 氏

※17:30～19:00 施設見学（東大和病院セントラルクリニック放射線科内）

（見学希望者は本院一階に案内担当がおりますので申し出てください）

記

日 時：平成28年1月21日（木）19時00分～20時30分

場 所：東大和病院 本院7階 会議室

（受付場所：本院7階会議室前）

ア ク セ ス：西武拝島線 東大和市駅下車 徒歩約12分

西武バス 「東大和病院前」下車

受 講 料：診療放射線技師500円（当日徴収）、

一般・新卒かつ新入会員ならびに学生 無料

申込方法：東放技ホームページ (<http://www.tart.jp/>) の参加申

し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

※研修会申し込み先は「学術教育」を選択してください。

カウント付与：日本診療放射線技師会生涯教育1.5カウント付与

問い合わせ：第12地区委員長 鈴木 晋 Mail : areal2@tart.jp

学術教育委員長 市川重司 Mail : gakujitu@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会事務所

TEL・FAX : 03-3806-7724



平成27年度 城南支部研修会

テーマ「小児放射線科医が求める臨床画像 ～読影補助評価のためのチェックポイント～」

講 師：自治医科大学とちぎ子ども医療センター 古川 理恵子 医師

小児の検査は、小児専門の機関でない限り多いわけではありません。しかし、いざ行う際、撮影された画像が検査目的に合致しているのだろうかと、不安を感じた経験はないでしょうか。今回の城南支部研修会ではそういう疑問を解決致します。

小児の検査では、まず年代別に正常像を知る必要があります。成長に伴う正常像の変化が、CT、MRI、単純X線写真の画像上において、どのように変化していくのか、診断医が診ているポイントはどこなのかなどを小児の画像を専門に読影されている放射線科の医師にご講義いただきます。小児と成人の違いに重きをおいた内容と、小児特有の疾患や、近年問題となっている虐待を疑う症例などもお話ししてください。

日頃疑問に思いながらも、なかなか学ぶ場が少ないテーマでありこの機会にぜひ、各モダリティからの疑問をぶつけてみませんか？きっと、今後の業務に生かせる講義内容になると思います。多くの皆さまの参加をお待ちしております。

記

日 時：平成28年1月22日(金) 19時00分～20時30分 (受付開始18時30分～)

場 所：帝京大学医学部附属溝口病院 研究棟6階

〒213-0002 神奈川県川崎市高津区二子5-1-1

ア ク セ ス：東急田園都市線 高津駅 西口改札より 徒歩約1分

J R 南武線 武蔵溝ノ口駅 徒歩約10分

受 講 料：診療放射線技師1,000円、一般・新卒かつ新入会員ならびに学生 無料

※「東京放射線」12月号の受講料に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

申込方法：東放技ホームページ (<http://www.tart.jp/>) の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

問い合わせ：城南支部委員会 E-Mail : shibu_jyounan@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX : 03-3806-7724

第11地区委員長(城南支部委員長) 千葉 利昭

第15地区委員長 原子 満

第4地区委員長 竹安 直行

第8地区委員長 鎌田 治

以上



会 告

5

第14回ウインターセミナー

テーマ 急性疾患ア・ラ・カルトⅡ ～血管画像所見を学ぶ～

第14回ウインターセミナーは急性血管疾患をテーマに掲げ、技師の目線で画像の捉え方を解説いたします。昨年夏の第14回サマーセミナーで好評であったシリーズの第2弾となります。CTなどの画像所見が診断の決め手となります。一次読影という観点からもぜひ知識として押さえておきたいところです。多くの方の参加をお待ちしております。

—プログラム—

15:00～15:30	食道靜脈瘤	公立福生病院 野中 孝志 氏
15:30～16:00	肺塞栓症（肺梗塞）	日本大学医学部附属板橋病院 比内 聖紀 氏
16:10～16:40	上腸間膜動脈（SMA）症候群	東京医科大学病院 岡本 淳一 氏
16:40～17:10	大動脈解離・瘤	東京大学医学部附属病院 長谷川浩章 氏

記

日 時：平成28年1月23日（土）15時00分～17時10分

会 場：東京医科大学 研究教育棟4階第2講堂 新宿区西新宿6-7-1

ア クセス：JR新宿駅下車 西口より 徒歩約15分

都営大江戸線 都庁駅前駅下車 徒歩約7分

東京メトロ丸の内線 西新宿駅下車 徒歩約1分

受 講 料：会員1,000円、非会員5,000円、一般・新卒かつ新入会員ならびに学生 無料

定 員：100名（定員になり次第締め切る事もあります）

申込方法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

カウント付与：日本診療放射線技師会生涯教育2.0カウント付与

日本救急撮影技師認定機構2ポイント付与

問い合わせ：学術教育委員長 市川重司 E-Mail：gakujitu@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

第8回MRI集中講習会

下記の要領にて第8回MRI集中講習会を開催いたします。

各講義では専門試験問題の解説も含めて行います。

講義には本講習会用に出版した「MRI集中講習（改定版）」をテキストとして使用します。（参加者には無料配布）多くの方の参加をお待ちしております。

～プログラム～

14:00～15:15 原理（基礎）および安全管理（専門試験問題含む）

講師：杏林大学医学部付属病院 宮崎 功 氏

15:20～16:20 パルスシーケンスおよび高速撮像法（パラレルイメージング）（専門試験問題含む）

講師：虎の門病院 高橋 順士 氏

16:20～16:40 ブレイクタイム「MRI用真空固定具の紹介」

講師：株式会社六涛 小田嶋 正 氏

16:40～17:40 アーチファクト（専門試験問題含む）

講師：公立福生病院 野中 孝志 氏

17:40～18:40 脂肪抑制（専門試験問題含む）

講師：東京慈恵会医科大学附属第三病院 北川 久 氏

記

日 時：平成28年2月6日（土）14時00分～18時40分

場 所：公益社団法人東京都放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア クセス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

受 講 料：会員3,000円、非会員10,000円（当日徴収）

定 員：50名 ※講義に使用するテキストはMRI集中講習（改訂版）を使用

申込方法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

カウント付与：日本診療放射線技師会生涯教育4.0カウント付与

問い合わせ：学術教育委員長 市川重司 E-Mail：gakujitu@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

平成27年度 城西支部研修会

テーマ：「ティーチングファイル ーここがポイントー」 頸部の画像診断

講 師：東京医科大学病院 勇内山 大介 先生

今年度は頸部画像を取り上げます。頸部領域は最も苦手な領域の一つでありながら、勉強をしたくともなかなか意欲が湧かないと学べない領域だと思います。また解剖についてもはっきり分からぬ事が多いと思います。この領域をCT、MRI画像を中心に、解剖や疾病について基礎から学びたいと思います。今回、開催する事によって皆さまが興味を持ち、講習翌日から頸部画像が楽しく見られるように一緒に勉強をしたいと思います。

病院、クリニック、検診施設の方など、多くの方々の参加をお待ちしています。

記

日 時：平成28年2月24日(水) 19時00分～20時30分 (受付開始：18時30分～)

場 所：東京医科大学病院 教育研究棟 4階第2講堂

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1

ア クセス：丸の内線西新宿駅より徒歩1分 JR新宿駅西口より徒歩11分

受 講 料：診療放射線技師1,000円 一般・新卒かつ新入会員ならびに学生 無料

申込方法：東放技ホームページ (<http://www.tart.jp/>) の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

問い合わせ：城西支部委員会 E-Mail：shibu_jyousai@tart.jp

第3地区委員長 平瀬繁男 (城西支部長)

第9地区委員長 飯島利幸

第10地区委員長 今野重光

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



第53回 日暮里塾ワンコインセミナー 「～学術教育が選んだ発表演題～」 ～入会促進セミナー～

第53回日暮里塾ワンコインセミナーは恒例となりました「学術教育が選んだ発表演題」です。平成27年度に発表された演題の中から興味深いものを厳選し、再度発表していただきます。また日頃の研究成果を発表することは、われわれ医療人におかれた責務でもあります。

参加できなかった方、参加していたが聞けなかったという方、再度聞きたい方など、多くの方の参加お待ちしております。

さらに毎年この演題群の中から学術奨励賞、新人賞を選出しております。是非参加して頂き発表演題のアンケートにご協力をお願ひいたします。

今回は入会促進セミナーということで参加費無料となっております。

詳細は2月号に掲載します。

記

日 時：平成28年2月18日(木) 18時30分～20時30分

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア クセス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

参 加 費：無料

申込方法：東放技ホームページ (<http://www.tart.jp/>) の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

問い合わせ：学術教育委員長 市川重司 E-Mail：gakujitu@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



会 告

9

平成27年度 災害対策委員会研修会

テーマ「緊急被ばく医療講習会～3.11を風化させないために～」

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故にあたり、公益社団法人東京都診療放射線技師会では、発災直後の被災地におけるサーベイ活動、都内避難所における放射線サーベイボランティア活動など、放射線専門の職能団体として活動を行いました。これらの活動・経験を語り継ぎ風化させないために、また、原子力規制委員会から出されている原子力災害対策指針等の改正（平成27年8月26日）を踏まえ、今年度も講習会を企画しました。皆さまの参加をお待ちしております。

プログラム

限	タイトル	講 師
1	緊急被ばく医療について	災害対策委員会委員
2	サーベイメータの取り扱い	
3	タイベックスツーツ着脱（実習）	
4	クイックサーベイ（実習）	

記

日 時：平成28年3月12日（土）15時00分～18時00分（受付開始14時30分～）

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア クセス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

定 員：50名（先着順）

受 講 料：会員1,000円、非会員5,000円（当日徴収）

申込方法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

カウント付与：日本診療放射線技師会生涯教育3.0カウント付与

問い合わせ：災害対策委員長 渡辺 靖志 E-Mail：saigai@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



第11地区研修会 テーマ「MRI（再）入門」

今回、第11地区ではMRIについての研修会を開催します。「MRI（再）入門」と題しまして、われわれ診療放射線技師が知っておきたいガドリニウム造影剤の基礎と、脳梗塞を中心とした病態から撮像法について皆さまと一緒に勉強できる研修会を企画いたしました。これからMRIに携わる方、MRI初心者の方、この機会に再度基本から復習したい方など、多くの皆さまの参加をお待ちしております。

—プログラム—

- 18:30～ 「ガドリニウム造影剤入門 ～腎機能と副作用～」
エーザイ株式会社 総合マーケティング部 学術・研修担当 岸 直也 氏
- 19:00～ 「頭部MRI入門 ～脳卒中を中心に～」
東邦大学医療センター大橋病院 放射線部
日本磁気共鳴専門技術者認定機構 上級磁気共鳴専門技術者 服部尚史 氏

記

日 時：平成28年2月10日（水） 18時30分～20時30分 （受付開始18時00分～）

場 所：東邦大学医療センター大橋病院 教育棟1F臨床講堂

交 通：東急田園都市線 池尻大橋駅下車 徒歩約6分

：京王井の頭線 駒場東大前駅下車 徒歩約10分

※詳細は東邦大学医療センター大橋病院HP
(<http://www.ohashi.med.toho-u.ac.jp/>) をご覧ください。

受 講 料：診療放射線技師500円、

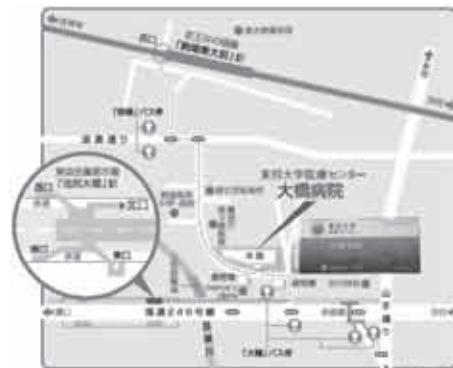
一般・新卒かつ新入会員ならびに学生 無料

申込方法：area11@tart.jpのアドレスへ氏名・地区・勤務先をお知らせください。もしくは、東放技ホームページ(<http://www.tart.jp/>)の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

※当日参加も歓迎いたします。

問い合わせ：第11地区委員長 千葉利昭 E-Mail : area11@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX : 03-3806-7724



以上

お知らせ 2

第1地区研修会 テーマ「大腸CTの現状と問題点」

講師：健診会 東京メディカルクリニック 放射線科 三原 嵩大 氏

第1地区では下記のとおり研修会を開催します。講師に健診会 東京メディカルクリニック 放射線科の三原嵩大氏をお招きして「当院における大腸CTの現状と問題点」というテーマでご講演していただきます。

近年、大腸CTは多くの施設で行われるようになってきています。これから始めようと思っている施設や実際にどのように大腸CTを行っていけば良いかと、悩んでいる方もぜひこの機会に基礎から実践までを学んでみませんか。皆さまのご参加をお待ちしております。

記

日 時：平成28年2月19日（金） 19時00分～20時00分
会 場：東京通信病院 管理棟5F 小講堂

アクセス：

- ・JR総武線飯田橋駅下車
西口から徒歩約5分
- ・東京メトロ東西線飯田橋駅下車
A4出口から徒歩約9分
- ・東京メトロ有楽町線飯田橋駅下車
B2a出口から徒歩約6分
- ・東京メトロ南北線飯田橋駅下車
B2a出口から徒歩約6分
- ・都営地下鉄大江戸線飯田橋駅下車
A4出口から徒歩約9分



受 講 料：診療放射線技師 500円

新卒かつ新入会員ならびに学生 無料

申込方法：東放技ホームページ (<http://www.tart.jp/>) の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。※当日参加も可能です。

問い合わせ：第1地区委員長 齊藤謙一 E-Mail : area01@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX : 03-3806-7724

以上

平成27年度 第2地区研修会 テーマ「AEDの安全使用」

～安全な使用の為の日常点検、救命、訴訟事例について～

講師：日本光電 新井俊明 氏

AED（自動対外式除細動器）が2004年に設置され、わが国は世界で最も多く設置され救命できる可能性が高い地域になっています。しかし、記憶にあると思いますがプロサッカー選手の突然死のようにまだ、十分ではないようです。

今回の研修会では、日本光電の新井俊明氏より、突然死について・AED設置されての10年の変化・救命事例など含めた講演をしていただきます。

第2地区として久しぶりの研修会となります。地区会員はもちろん、他地区からの参加もお待ちしております。

記

日 時：平成28年2月26日(金) 19時00分～20時00分 (18時30分 受付開始)

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア クセス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

受 講 料：診療放射線技師 500円、一般・新卒かつ新入会員ならびに学生 無料

申込方法：東放技ホームページ (<http://www.tart.jp/>) の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

(申込フォームをご利用の際の主催は、"第2地区" を選択してください。)

問い合わせ：第2地区委員長 藤田賢一 Mail：area02@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

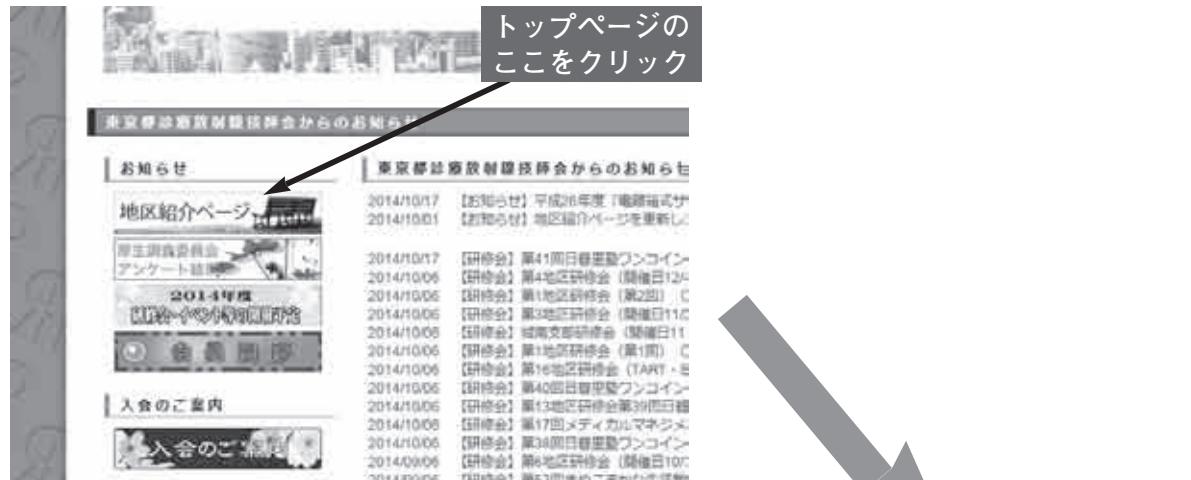
以上

お知らせ 4

あなたはご自分の所属地区をご存じですか？

東京都診療放射線技師会は、東京を13の地区に分け、東京に隣接する千葉方面・神奈川方面・埼玉方面を加えた計16地区で構成されています。

本会ホームページhttp://www.tart.jp/に各地区の表と地図が掲載されていますので、ぜひ活用ください。



トップページの
ここをクリック

東京都診療放射線技師会からのお知らせ

お知らせ

地区紹介ページ

2014年度
会員登録

入会のご案内

入会のご案内

2014/10/17 【お知らせ】平成26年度「電頭福袋」
2014/10/01 【お知らせ】地区紹介ページを更新しました。

2014/10/17 【研修会】第41回日暮里駅ワンコイン
2014/10/06 【研修会】第4地区研修会（開催日12/6）
2014/10/06 【研修会】第1地区研修会（第2回）（C）
2014/10/06 【研修会】第3地区研修会（開催日11/26）
2014/10/06 【研修会】城南支部研修会（開催日11/26）
2014/10/06 【研修会】第1地区研修会（第1回）（C）
2014/10/06 【研修会】第16地区研修会（TART・B）
2014/10/06 【研修会】第40回日暮里駅ワンコイン
2014/10/06 【研修会】第13地区研修会第3回（開催日10/25）
2014/10/06 【研修会】第17回「メディカルマネジメント」
2014/10/06 【研修会】第14回日暮里駅ワンコイン
2014/09/06 【研修会】第6地区研修会（開催日10/25）
2014/09/06 【研修会】第53回きめこまかなる生活物

なお、毎月月替りで、各地区的特色や活動を紹介しています。
地区表の上の地区名からリンクしていますので、こちらもぜひご覧ください。

情報委員会



第1地区	第2地区	第3地区	第4地区	第5地区	第6地区	第7地区	第8地区	第9地区	第10地区	第11地区	第12地区	第13地区
第1地区	第2地区	第3地区	第4地区	第5地区	第6地区	第7地区	第8地区	第9地区	第10地区	第11地区	第12地区	第13地区
第1地区	第2地区	第3地区	第4地区	第5地区	第6地区	第7地区	第8地区	第9地区	第10地区	第11地区	第12地区	第13地区
第1地区	第2地区	第3地区	第4地区	第5地区	第6地区	第7地区	第8地区	第9地区	第10地区	第11地区	第12地区	第13地区
第1地区	第2地区	第3地区	第4地区	第5地区	第6地区	第7地区	第8地区	第9地区	第10地区	第11地区	第12地区	第13地区

研究会	第1地区	牛込駅前	中央区	赤坂	第2地区	中野区	豊島区	第3地区	墨田区	江東区	江戸川区	第4地区	千葉県	千葉市	習志野市	船橋市	印西市	柏市	松戸市	習志野市	船橋市	印西市	柏市	松戸市
研究会	第1地区	牛込駅前	中央区	赤坂	第2地区	中野区	豊島区	第3地区	墨田区	江東区	江戸川区	第4地区	千葉県	千葉市	習志野市	船橋市	印西市	柏市	松戸市	習志野市	船橋市	印西市	柏市	松戸市
研究会	第1地区	牛込駅前	中央区	赤坂	第2地区	中野区	豊島区	第3地区	墨田区	江東区	江戸川区	第4地区	千葉県	千葉市	習志野市	船橋市	印西市	柏市	松戸市	習志野市	船橋市	印西市	柏市	松戸市
研究会	第1地区	牛込駅前	中央区	赤坂	第2地区	中野区	豊島区	第3地区	墨田区	江東区	江戸川区	第4地区	千葉県	千葉市	習志野市	船橋市	印西市	柏市	松戸市	習志野市	船橋市	印西市	柏市	松戸市
研究会	第1地区	牛込駅前	中央区	赤坂	第2地区	中野区	豊島区	第3地区	墨田区	江東区	江戸川区	第4地区	千葉県	千葉市	習志野市	船橋市	印西市	柏市	松戸市	習志野市	船橋市	印西市	柏市	松戸市



東京都功労者表彰



元 財団法人多摩緑成会
緑成会病院 放射線科科長

おお るい こう きち
大類 幸吉

昭和21年10月10日生（69歳）

経歴

昭和40年4月	法政大学経済学部	入学
昭和44年3月	同	卒業
昭和42年4月	城西放射線専門学校	入学
昭和44年9月	同	卒業
昭和45年4月	日本柔道整復師専門学校	入学
昭和47年3月	同	卒業

職歴

昭和46年4月	財団法人多摩緑成会 緑成会病院	入職
昭和48年4月	同	放射線科科長
平成18年10月	同	定年退職
平成18年11月	特定医療法人財団 青梅成木台病院	入職
平成18年11月	同	放射線科科長
現在に至る		

団体歴

昭和48年4月～昭和50年3月 社団法人東京都放射線技師会 第12地区委員
平成6年4月～平成15年3月 同上

資格

昭和45年8月 診療エックス線技師免許証
昭和48年7月 診療放射線技師免許証
昭和48年7月 柔道整復師免許証
昭和46年3月 社団法人東京都放射線技師会入会、社団法人日本放射線技師会入会

賞罰歴

平成15年5月 社団法人東京都放射線技師会 小野賞
平成15年5月 多摩緑成会理事長 永年勤続表彰

東京都功労者表彰をうけて

大類幸吉

2015（平成27年）10月1日東京都知事 外添要一様より東京都功労者表彰を受賞致しました。身にあまる光栄と感謝致しております。受賞に際して、公益社団法人東京都診療放射線技師会会長をはじめ理事、表彰委員会からの推薦をいただきありがとうございました。審査書類の作成など、高野修彰理事には、大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

私は昭和45年に技師の資格を修得してから40余年、診療放射線技師として医療の末端を担って来ました。常に求められる画像情報を正しく的確に、そしてより診断価値のある画像を提供する事に務めてまいりました。

昭和46年財団法人多摩緑成会 緑成会病院放射線科に入職。その当時はアナログ撮影の時代でした。アナログ撮影からデジタル撮影へと変化し、X-TV、CT、MRI、CR、3D、4Dの画像へ移行して、今は完全にデジタルの時代です。新しい装置を導入した際は常に研修会やカンファレンスを行い、より良い治療へと結び付けられるように努めてきました。財団法人緑成会は、緑成会病院、重症心身障がい児施設、整育園、身体障害者施設、東京都多摩療護園などがあり常に放射線科と関わりがありました。重症心身障がい児や大人の障害者のCT、MRIの撮影は、撮影台に載せるだけで暴れる事も少なくありません。動かないように言っても難しく呼吸止めもできません。頭蓋骨や脊椎などの変形体の撮影も多くありました。病院当直で同時に数台の救急車が来て大変な事も時々ありました。職場の放射線技師全員がよく協力してくれた事と大変感謝しております。

緑成会病院定年後、特定医療法人青梅成木台病院に勤務しております。成木台病院は精神科や認知症センターがあり、東京都の委託をうけて措置患者のCTなどの撮影を行っています。このような措置と言う患者が沢山いる事を知りました。大変ですがこれからも撮影を行える事を嬉しく思います。私が40数年間、診療放射線技師として職責を全うできたのは、技師の仲間と技師会のおかげだとありがたく思っております。今回の受賞は長年にわたりご支援、ご指導を賜った多くの技師会の会員の皆さまのおかげです。感謝申し上げます。公益社団法人東京都診療放射線技師会の益々の発展と、会員の皆さまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げ東京都功労者表彰の受賞の御礼とさせていただきます。

大類幸吉様の東京都功労者表彰の祝辞

会長 篠原健一

この度の平成27年度東京都功労者表彰（知事表彰）におきまして、本会会員として多年にわたりご活躍された大類幸吉様が受賞されましたことをご報告し、心よりお祝を申しあげます。このことは都民の医療・福祉の第一線で活動している本会会員にとりましても、まことに誇りと名誉ある受賞であり慶びに堪えません。

大類様は昭和46年に財団法人多摩緑成会病院放射線科に入職以来、44年以上の永きにわたり診療放射線技師としてこの道一筋に奉職されました。

職場は、重症心身障がい児施設、身体障害者療護施設、心身障害者通所なども有し、心身障害児や障害者の検査が多く一般病院とは異なった苦労が多かったそうです。障害が重症な方も多いため、患者さん一人ひとりに発泡スチロールを加工した専用の補助具を作成するなど工夫をして撮影し、業務終了後にはスタッフ間でカンファレンスを行うなど撮影手技や補助具などについて情報を共有、技師全員が同一の画像を提供できるようにと努力をされました。常に「診療放射線技師に求められるものとは、いかなる技師が撮影しても同じ診断価値のある画像を提供すること」を信念とし後進を育成されました。

本会においては、昭和48年から2年間及び平成6年から9年間に亘り第12地区の地区委員として、組織の発展、診療放射線技師の資質・技術の向上に多大なる貢献をされました。第12地区は中小、一人勤務の施設が多く、地理的にも集まりにくい環境だったそうですが、さまざまな講習会・勉強会を工夫し交流の機会を増やし、現在に引き継がれる地区の活性化に尽力されました。

この度の大類様の受賞は、診療放射線従事者としての技術発展・地域医療に対するご功績が高く評価されたものであります。今後とも本会の発展と後進のために更なるご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、大類様の益々のご健勝をお祈りしお祝いの言葉とさせていただきます。

超音波検査 はじめの一歩 (Vol.4-腹部 臨床)

小原 和史 (横須賀市立うわまち病院診療放射線科)

今回は、肝の症例について画像を提示します。患者データー等は省略していますが、実際の検査では検査目的をはじめ既往・現病歴、主訴、肝機能、ウィルス感染の有無、他の画像データー等を把握する必要があります。検査に臨む姿勢として、まず所見がある事を前提に“疑って”かかることが大事です。肝機能障害があり、体格も立派な患者を最初から“脂肪肝でしょう”と決めつけていると、脂肪肝らしい写真の撮り方になり、血管腫や抜けの悪い囊胞等はfocal spared area (region) で片付けられてしまう可能性があります。実際の例として、肝内胆管が拡張し、胆囊も緊満状態で閉塞性黄疸を疑う症例で、下部胆管の十二指腸乳頭近傍に音響陰影を伴った結石を認めました。このとき術者は原因が下部胆管の結石であると判断し、その旨をレポートに記載しましたが、後日施行されたERCPでは、肝門部胆管を閉塞する腫瘍が発見されました。胆道の閉塞原因を発見する順序は良かったと考えますが、部位の走査一つ一つが下流側を意識するあまり上流側が疎かになり、見逃してはならない腫瘍を捉えることができなかつたようです。常に所見は一つだけなのか、この部位だけなのかと緊張を持続する必要があります。

1. 非腫瘍性疾患

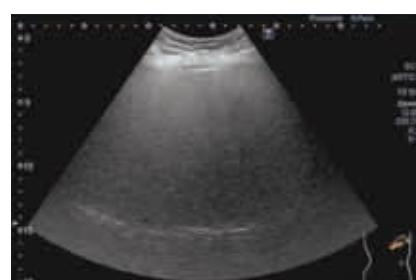
脂肪肝：脂肪肝は肝細胞に中性脂肪の脂肪滴が無秩序に沈着した状態であり、肝実質に入射した超音波は、音響インピーダンスの差が大きくなった無数の反射源からの反射波や散乱波を受信することで、肝のエコーレベルは腎に比べ明るく描出される（肝腎コントラスト陽性）【図1】。客觀性をいっそう増すためには、肝と脾のコントラストを加えるが、2分割でフォーカス位置とゲインは一定で行う必要がある（肝脾コントラスト陽性）【図2】。超音波は音響インピーダンスの異なる境界面で一部が反射し一部が透過するが、透過した超音波のエネルギーは超音波の往復方向（深部）で減衰を起こす。正常な肝実質では比較的少ない反射と減衰も、脂肪肝の状態では顕著となる（深部減衰）【図3】。反射・散乱・減衰は、比較的描出されやすい脈管（静脈や門脈）へも影響し、結果的に脈管の不明瞭化となる【図4】。脂肪が肝全体に均一に沈着せず、不均一な地図状に広がるもの【図5】や区域性に発生する場合【図6】もある。



【図1】



【図2】



【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

肝炎：肝炎には急性（劇症）、慢性がある。急性肝炎のうち劇症肝炎は急速に肝細胞の破壊が進行し、肝性脳症を発症する等、その対処に追われるため、超音波検査を行う機会は少ない事が多い。【図7】は急性肝炎の右肋弓下走査である。肝の浮腫のためエコーレベルは低下し、門脈末梢枝が浮かび上がるよう描出される。腎機能が正常であれば、肝腎コントラストは逆陽性となる【図8】。慢性肝炎では肝縁の鈍化やエコーレベルの上昇があるが、脂肪肝との区別は深部減衰の有無である【図9】。



【図7】



【図8】



【図9】

アルコール性肝炎から肝硬変への症例では、肝表面から超音波ビーム進行方向へ縦縞状（筋状）の模様が描出される事がある。肝表面の細かな凹凸不整（小さな再生結節）はアルコール性肝硬変の特徴と言われ、それらの辺縁で超音波の屈折が起こる事で、肝実質が風になびく旗のほうに観察されFlag sign（フラッグサイン）と呼ばれる【図10】。肝硬変では辺縁の鈍化、表面の凹凸不整【図11】（高周波プローブで拡大すると波状の不整【図12】）。内部エコー不均一【図13】、側副血行路【図14】（傍臍静脈）の開通、腹水、脾腫、リンパ節腫脹等の所見が見られる。



【図10】



【図11】



【図12】



【図13】



【図14】

肝膿瘍：肝膿瘍【図15】は境界不明瞭、内部エコー不均一、後方エコーの増強、ドプラでは膿瘍の周囲に豊富な血流信号を認める場合があるが、膿瘍原因や病期により内部エコーや血流動態は変化する。



【図15】



2. 肿瘍性疾患

囊胞：囊胞は境界明瞭、内部無エコー、後方エコーの増強が特徴的な所見となる【図16】。肝表面や深部等、音場の悪い場所や不適切なフォーカス位置では、囊胞内部にエコーを生じ充実性腫瘍と間違ったり、囊胞自体に気付かない場合もある。この場合後方エコーの増強のみが表示される場合が多く【図17】、走査角度を変え囊胞との距離をとったり、フォーカス位置を囊胞の直ぐ下へ移動させると囊胞自体が明瞭となる。



【図16】



【図17】

外科的医療行為後や外傷後に発生する胆汁性（仮性）囊胞（Biloma）は、上皮化組織に被包化された胆道系外胆汁貯留と定義されている。【図18】は肝癌に対する肝の部分切除後に発症したBilomaである。術後の発見時は境界明瞭、辺縁一部不正、後方エコー増強を伴った巨大な囊胞状腫瘍であるが、内部エコーは無エコーではなく微小な点状高エコーの充満を認めた。経過観察すると内部エコーの様子は変化するが、全体の大きさはさほど変化せず、ドプラでも充実性な部分に血流信号を認めなかった。後に経皮的穿刺にて仮性Bilomaと診断した。



【図18】

肝血管腫：高エコーに描出される腫瘍性疾患に血管腫（主に海綿状血管腫）がある。糸くずの塊のように密集した血管の集合体で、血洞への血液の流入出の状態により反射源が変化し、エコーレベルも変化すると言われている【図19】。Marginal strong echoと呼ばれる辺縁高エコーや、経時的エコーレベルの変化（wax & wane sign）【図20】が特徴である。



【図19】



【図20】

比較的大きな血管腫では、後方エコーの増強が見られる。体位変換を行うことで内部エコーレベルやパターンが変化する場合をchameleon sign 【図21】と呼ぶ。



【図21】



【図22】

ドプラでは内部に点状の血流信号を認める場合があり、近接する脈管への圧排はあっても浸潤を疑う所見はない【図22】。disappearing signは、プローブでの圧迫による腫瘍の不明瞭化または消失する所見で、主に術中超音波検査走査時の所見である。

肝細胞癌：肝細胞癌は分化度により内部エコーとパターンが変化する。【図23】は充実性低エコー腫瘍の中に更に低エコー腫瘍を内包する結節内結節型である。成長するに従い被膜が形成（纖維性被膜）され、これを辺縁低エコ一帯（halo）と呼ぶ。血流はバスケット状の信号を認め、外側側方陰影、後方エコーの増強を認める。sonazoidoを使った造影超音波検査では、0.5mlの造影剤を20mlの生理食塩水でゆっくり静注する事で、腫瘍の血流動態を所見に加えることができる【図24】。



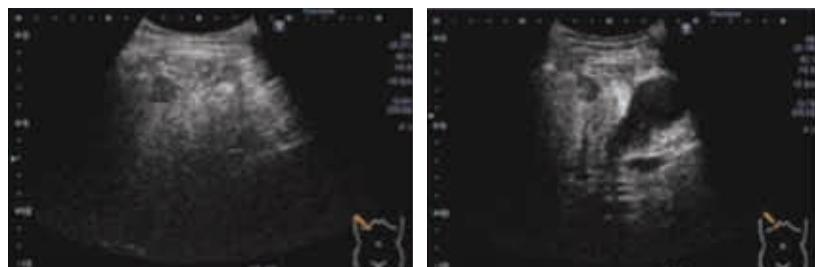
【図23】



【図24】



また、後血管相（静注後約10分）では同部位の欠損または不完全な欠損像として描出される【図25】。



【図25】

転移性肝癌：転移肝癌は多発する場合が多く、bull's eye patternや、高エコー、cluster sign、融解壊死による中心部無エコー域を伴った腫瘍として描出される【図26】。

ドプラでは腫瘍内部に明瞭な血流信号を認めない場合が多く、腫瘍を迂回する血管（detouring pattern）を認める場合がある。



【図26】

参考文献

- 1) 松原 薫：日本放射線技術学会誌 第56巻 第10号 1218–1230 (2000)
- 2) 菅 和雄、関口隆三：わかる音響の基礎と腹部エコーの実技、東洋書店、東京 (2002)
- 3) 辻本文雄、松原 薫、井田正博：腹部超音波テキスト改訂版、ベクトルコア、東京、(1992)
- 4) 超音波基礎技術テキスト：日本超音波検査学会特別号Vol.37 No7 December (2012)
- 5) 金森勇雄 等：最新腹部超音波検査の実践 基礎から造影検査まで、医療科学社、東京、(2008)
- 6) 熊田 卓 等：肝腫瘍の超音波診断基準 Jpn J Med Ultrasonics Vol. 39 No.3 (2012)

超音波 今むかし

今回は今昔の「昔」、水浸法アクセスキャンについてです。

写真は四面振動子によるシングルビームのプローブをモーターで駆動させるいわゆる機械式走査 (mechanical scan) です。水を入れたバッグを乳房に乗せ、乳房の形状に近い状態となるべく表面に垂直にビームが入射するようアーケ (arc : 円弧) 状に走査する装置で、1971年の写真を竹原先生の許可を得て掲載いたします。

(菅 和雄)



乳癌の臨床第20巻第6号 乳房超音波診断の今昔 (竹原靖明) より引用

平成28年新春座談会

場所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター



前列右より	篠原 健一	東放技 会長
	飯田紀世一	東京支部 支部長
後列右より	市川 重司	東放技 理事、学術教育委員長
	白木 尚	東放技 副会長
	葛西 一隆	東放技 副会長
	多賀谷 靖	東京支部 副支部長
	佐藤 智春	東京支部 研究教育担当理事
	谷畠 誠司	東京支部 学術担当理事



白木副会長（司会）：平成28年新春座談会を始めさせていただきます。はじめに、篠原会長よりご挨拶いただきます。

篠原会長：皆さん、本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。われわれ診療放射線技師には、診療放射線技師会と放射線技術学会の大きな組織が二つあります。各々が協調協力し合うことが大事では



篠原会長

ないかと考え企画いたしました。本日は、ざくばらんにいろいろな意見を交換して未来につなげる話をできれば良いと思います。よろしくお願ひいたします。

白木副会長：篠原会長ありがとうございました。それでは早速ですが、昨年両会が実施した事業の中で強調すべき事柄について、ご紹介いただきたいと思います。まず、東放技からお願いします。

篠原会長：昨年は、われわれの職業の原点であります、エックス線発見120周年という年で式典もありましたし、それから日本のエックス線技術の原点となります京都で学術大会を開催することができました。皆さんに感謝を申し上げます。また、われわれの身分法である診療放射線技師法が一部改正となり、業務範囲が拡大したというのも大きな出来事でした。それに伴う「統一講習会」も全国で実施され、本会だけでもすでに3回実施し、年度内にあと3回実施する予定です。何よりも、患者さんの安心・安全のための教育研修であり、公益社団法人としての重要な責務だと思っています。

白木副会長：ありがとうございました。次に東京支部

飯田支部長お願ひいたします。

飯田支部長：例年通りの事業としまして東京都診療放射線技師会との合同での学術講演会をはじめ、東京支部セミナー、東京支部技術フォーラムとして、多岐に



飯田支店長

わたる専門分野の学術セミナー、関連施設見学会などを例年通りに進めました。そして、会員入会促進のための積極的な広報活動として、研究教育委員会の下に置かれている12の研究班が単独の広報のみならず、各セミナーの開催時に

チラシの配布により他の研究班の広報を行うなどお互いに協力し合ってできるだけ多くの会員の参加を促すことに努めました。また、ただ外部講師を招くのではなく研究班の班員自ら講師になり、学術事業の充実を図ってきました。日本放射線技術学会としては、国際化に向けて平成26年3月に国際化特別委員会から「世界の放射線技術学分野でリーダーシップをとり、国内だけでなく世界の保健医療に貢献することである」と答申が出されました。春の学術大会は国際化を意識した大会として今年の第72回総会学術大会では、発表スライドとCyPosの全面英語化、そして平成30年の第74回総会学術大会までに、口述発表の50%が英語口述発表となることを目指しております。そういうことも考慮しまして、今年度より東京支部においては国際化推進特別委員会を設けて国際化を積極的に推し進めております。

白木副会長：ありがとうございます。私の感じたところでは、やはり飯田支部長がご就任されたということ、そして春期の学術大会を大成功に収められたということが印象的です。あの参加者数は目覚ましいものでしたね。佐藤研究教育担当理事が大会長でしたよね。



佐藤研究教育担当理事

佐藤研究教育担当理事：はい。まず、大会の方向性を教育に絞りまして、「教育による放射線技術のスキルアップをめざして」というテーマを掲げました。そして、大会テーマにしたがって教育講演を中心としたプログラムを企画し、午

前中は一般研究発表47演題、ランチョンセミナーを挟んで午後からは特別講演、国際化推進教育セミナーおよび8題の教育講演を行いました。先ほど支部長より説明がありました12ある研究班の班長に協力を要請し多くの会員が興味を示す題材を取り上げました。東京支

部の学術大会は、特に私が専門とする治療部門からの参加者が毎回少ないので、そこを強化できれば参加者数の増大が見込めるのではないかと考えました。そこで治療の教育講演を3題そろえ、また東放技の白木副会長をはじめ都内の主要な治療施設に演題をお願いした結果、17題もの治療分野の演題をいただきました。一方、一般撮影やCT、MRIの教育講演においては、モバイル端末を利用した受講者参加型の教育講演を行い受講した参加者からは大好評がありました。そして、100ページを超えるページ数からなる教育講演集を発刊し、参加者全員に配布しました。おかげさまで、その結果として483名参加いただき大盛況に収めることができました。この参加人数は歴代3位ということでしたが、今後は学術大会の運営を行っている谷畠学術担当理事とさらなる連係を深めながら研究教育担当理事として学術大会を盛り上げていきたいと思います。

白木副会長：あれは素晴らしいですね。新支部長の勢いを感じた大会でした。

飯田支部長：佐藤大会長はじめ谷畠実行委員長そしてご協力いただいた方々のお力だと思います。そして、診療放射線技師会のお力添えも大きかったです。ありがとうございました。

白木副会長：篠原会長、飯田支部長ありがとうございました。引き続きになりますが、平成27年度の事業もまだあります、平成28年度に、特に強調したい方針や事業などをご紹介いただきたいと思います。



白木副会長

篠原会長：今年も含めて、あと1~2年で既卒者の多くが統一講習会を受講済みとなる予定です。厚生労働省では診療放射線技師に限らず各職能団体の患者安全に対しての適切な教育の実施状況、業務拡大によって日本の医療・チーム医療が良くなったのかなどを検証する委員会を作るとのことです。これは当然の事であります。これによる評価如何では、更なる業務拡大への論議につながる可能性が広がるとおもいます。ですから、この患者さんの安全のための統一講習会は公益社団法人としての重要な責務だと考えています。

それから、今年から数えると三年後には関東甲信越診療放射線技師学術大会が東京の開催担当年、四年後には本会創立70周年を迎えると同時に、オリンピックの開催都市の職能団体としての使命もあると思っています。三年後、四年後のために今すべきことの多くが始まる年であると思っています。

白木副会長：そうですね、おっしゃる通り更なる業務範囲の拡大実現のためにも、安全のための統一講習会をしっかりと進めていかなくてはいけませんね。ありがとうございました。では、飯田支部長お願ひします。

飯田支部長：昨年の春期学術大会は盛大に執り行うことができました。先ほど佐藤大会長より話がありました通り研究発表の場だけではなく、教育的な側面も取り入れたというのが会員の皆さまにご賛同いただけたのかと思っております。28年度は春期学術大会が70回を数え、節目の回であり、記念大会との位置づけで2日間開催を予定しております。そして大会長に東京臨海病院の藤井さんと支部初女性大会長ということもあります。魅力のある大会としたいと思っております。国際化推進事業としては、8月に北海道支部と合同で英語研究発表トレーニングキャンプの開催を予定しています。平成18年度から8年間にわたり行われた海外研修派遣事業でスタンフォード大学研修を受けた方々が講師となって行われます。そして今年度の合同学術講演会は東京都診療放射線技師会ご協力のもと企画の段階から合同で進めていきたいと考えています。第16回合同学術講演会はお互いにとって新たな一歩となるかと思います。東京支部の学術大会は単独開催の他に2013年に関東支部とも合同で行いましたが、やはり東京だけではなくて他支部も合同で行うことで大きなものになりますし刺激を与え合うことができますので、今後も継続して定期的に行っていきたいと思います。



白木副会長：ありがとうございました。次年度に開催される第70回春期学術大会、微力ながら協力をさせていただきます。楽しみにしております。次は、診療放射線技師教育の在り方について、意見交換をしたいと思います。東京支部では今年度の春期学術大会のテーマに取り上げておられたし、重要な項目だと思います。こちらは最初に、学術担当からお話を伺いたいと思います。

市川学術教育委員長：東放技の学術担当を4～5年させていただいているが、技師教育といったテーマといたしましてはなかなか達成できていないのが実情です。さまざまなモダリティや技術的なことはそれをテーマに

開催することはどこでもしていて、もちろん私たちも行っているのですが、一技師のために何ができるのか、なかなか難しいことですが常々考えてはいます。昨年からは各地区を回っていろいろな方にわれわれを見てもらうようのこと



市川学術教育委員長

を始めました。「学術教育が行く」といったタイトルでおこなっていますが、われわれが向いて行って交流をするということが大事だと考えています。それを通じて技師会の姿を見ていただき、ただ講演を聞くだけではなく裏側でわれわれが動いているというのを感じていただけたらと思います。そして、若い方が何年後に技師会や東京支部に入って活躍する、といったところまでのビジョンを持ってこの活動をしています。われわれの活動をより多くの会員に見せることが技師教育につながると思います。今年も継続して行いたいと思います。もうちょっとこれを具体化させるためにはどうしていけばいいのかですが、資質にかかる勉強会や講演会、学生のうちから情報発信できる場なども考えています。これは今後、東京支部と同じテーマを持って一緒にやって行けたらと考えています。教育という大きなテーマを描きながらなかなか前に進めないのが実情ですが、学生が診療放射線技師になって技師会や技術学会と共に大きくなつて行ってもらえるような会運営や情報発信・配信をおこなえたらいいかなと考えます。

白木副会長：ありがとうございました。昨年から始まりました“学術教育が行く”は大変ですが、良い企画ですよね。今まで学術の企画というのは学術委員会中心で進めていましたが、そこを学術と支部や地区が連携して企画したものをその地区で開催する。これは、地域活性化につながりますね。昨年はどれくらい開催しましたか。

市川学術教育委員長：昨年は6回ですね。

白木副会長：学術全体的の企画はどれくらい開催しましたか。

市川学術教育委員長：日放技の委託事業も含めますと30くらいになるでしょうか。皆さまのご協力があってできることですよね。そういったところを若い人たちに見ていただきたいと思います。興味のある勉強会に行くだけではなくて、自分の地区に来るときには顔を出してみると、そうすると自ずと見知った顔も増えてくると思います。そうすれば、会との距離も少し近づいてくるのかなと考え昨年は活動しました。

白木副会長：昨年の題材としては、読影関連が凄い人気だったと思いますが。

市川学術教育委員長：そうですね。毎回アンケートをとっていますけど、読影もそうですが画像を見ることが若い技師さんの興味があるところのようです。

白木副会長：なるほど。東京支部の方はいかがでしょうか。



佐藤研究教育担当理事：東京支部の研究教育委員会は12もの各専門分野の研究班から構成され、各々がセミナーや技術フォーラムの企画運営を行っており、昨年は本部との共催を含めると31もの講習会を開催しました。近年、医療における放射線領域はさらに高度化し、今までになかった新しい技術を習得する状況に遭遇する機会が増えています。そのような技術はただ手順を追うだけでなく自ら考えながら行い、さらに改善していく必要があります。そして、われわれは患者のために、より最適な放射線技術の提供を継続してしていく責務があります。このようなときこそ基礎的な知識の習得が必要であり、各研究班とも基礎的な内容の講習会を中心に開催し、盤石な基礎学問の上にゆるぎない放射線技術を構築することができるよう会員のスキルアップを図っています。今後もこのスタンスを継続することで診療放射線技師教育の一端を担っていきたいと思います。



谷畑学術担当理事：昨年より学術担当理事を仰せつかりまして、まだ初年度でこういった場で発言させていただくのは大変おこがましいのですけれども、私の考える技師教育の在り方をお話しさせていただきます。昨年、春期学術大会

を佐藤大会長のもと実行委員長として一年間活動させていただきました。大会テーマとして「教育による放射線技術のスキルアップをめざして」を掲げましたが、やはり参加人数からみても卒後教育ということに対して皆さま非常に興味のあるところなのだなというのを肌で感じました。その卒後教育というものを技術学会としましてもしっかりと行っていくべきだと考えます。

例えば、技師会がおこなっている地区セミナー、日々の日常業務のかたわらに講習会やセミナーになかなか参加できない会員のために、地域性の高いセミナーを開催されていますが、これは非常に良いと思います。われわれ技術学会には地区制度がないので、こういった地域性が高い会員サービスは技師教育のコンテンツとして積極的に活用していくべきだと思います。そういう場を技師会の皆さんにご協力いただきながら参考にして卒後教育にしっかりと目を向けて行けたらと考えます。また、学生の時期から養成教育をおこなうことは技術学会も重要視しております。テクニカルな部分だけではなくて、患者対応や接遇、医療安全、そういうことも含めてノンテクニカルな部分も行い養成教育として目を向けていくべきだと考えています。

それから、学術発表や国際化に向けての取り組みですが、これは両団体が積極的におこなっていくべきだと考えます。われわれ東京支部としましては、技師向け、学生向けに別けて、学術発表をするためには、研究をするためには、国際大会にエントリーするためにはなどの推進セミナーやサマーセミナーなどの開催を積極的に企画していくべきだと考えております。



白木副会長：ありがとうございます。学術教育委員長ならびに学術担当理事、研究教育担当理事に技師教育についてお話ししていただきましたが、ここからはフリーディスカッションで教育に関するお考えをお話しいただきたいと思います。私の技術学会のイメージですと、先ほど出た英語でのスライド作成セミナーだったり、いろんな分野の研究や治療などの各種資格認定だったりとテクニカルな分野のサポートが充実していると思います。先ほど谷畑学術担当理事が仰られたノンテクニカルな分野は技師会の生涯教育にも重なる部分も多くありますので協力して行うことができるのかなと思いました。

飯田支部長：私が学術大会長を仰せつかったときには、医療安全についてシンポジウム行いました。各モダリティでテクニカルな部分はもちろんですが、ノンテクニカルな部分に関しても各施設でどのような安全対策を講じているかと大変有意義なものになりました。

白木副会長：現在、医療安全と患者接遇はどこの病院でもかなり力を入れていますよね。

一同：そうですね。

白木副会長：この分野はますます力を入れて取り組んでいくべきなのでしょうね。



飯田支店長

参加してもらおう、見てもらう姿勢もそうですが、やはり開催するから来てねっていうだけではなく会員が足を運びやすくするといった工夫も大事だと思います。技術学会が行う事業全般について、その客観性・公平性を担保し、学術研究水準の更なる向上を図るために、自己評価を行うことを目的として学会事業評価委員会が組織されました。それぞれの支部また本部の専門部会や委員会などの組織の強みや弱みを一度洗い出して方策や対策を打ち立てるといったものです。今回振り返ってみますと限られた施設からしか来ないとか、会員2,500名有しておりますけども全員のニーズに沿ったことができているのかどうか考えていきますと、西部地区の方々が来づらいのではないかとか見えてくる、そういったところを考慮することで参加者を増やしていく。そして、参加していただく事で技師教育にもつながるのかなと思います。

白木副会長：なるほど素晴らしい取り組みですね、洗い出しをされることで見えてくるものがある自己評価は大切ですね。

篠原会長：技師教育の在り方というお話だと、職能団体としてのお話し、いわゆる日本診療放射線技師会の政策となるわけですけども、ひとつは昨年の業務範囲の拡大、これはそれだけ医療現場が変化しているということですので、それに合わせた学生の診療放射線技師教育のカリキュラムも時代に即した見直しも必要だと思います。これは当然厚生労働省に要望を出しているところであります。さらにカリキュラムというは時代が進むにつれて増えていく傾向ですので、現状の教育年数が適切かどうか、四年制大学であればおおむね問題はないとは思います。診療放射線技師の教育機関を四年制大学以上にすることが必要です。昨年は、日放技の中澤会長と一緒に大学以外の養成校を訪問させていただいて大学化をお願いしてきました。また養成

校の設置基準についても見直していただきたいと思います。こちらも厚生労働省にお願いしているところです。そして、臨床実習も明確なガイドラインがないのが現状で、作成する委員会を立ち上げていただくようにお願いしています。理想的には卒後臨床研修の制度化も必要だと考えています。

白木副会長：日放技は明確なビジョンのもと政策を進めているわけですね。教育者の立場からはどうでしょうか。

葛西副会長：日放技で臨床実習指導者の資格がありましたよね。それを発展させていくといった方向性はないのでしょうか。



葛西副会長

篠原会長：現状はまだありませんが、臨床実習のガイドラインの中に臨床実習指導教員がいなくてはいけないといったことは必要だと思います。

白木副会長：昨年ですが、養成校の方々にお集まりいただいたときに要望として、臨床実習のカリキュラムを一本化したいといった意見もありました。ただ、養成校側からの出席者は教官（医師）が多いので、さらに現場での意見などを理解していただく必要があるようです。その他、ご意見ありますでしょうか。

多賀谷副支部長：診療放射線技師教育に関して言えば、専門学校と四年制大学があります。設置基準など事情もあるかとは思いますがすべて四年制大学に移行していただいてその先を見ると言った方がベストだと思います。卒後教育は技師会の方でけっこうやられていて、たとえば“きめこま”だったり、わたしもこの建物でないときの東放技事務所で新卒者に向けて一度講師をさせていただいたのですが、何年後かに大変為になりましたと言っていただける。そして、講義を受けた人の中から講師を務める人が出てくる。こういった事業を続けている東京都診療放射線技師会は素晴らしいことですし、続けていくことは大変重要だと思います。東京支部も近いことをできればと思ってはいますが、継続となると講師の負担など出てきますのでできていないのが現状です。卒後教育の具体的な話となりますと、10くらいの認定制度がありますが、それを取得したところでなにもない。現状あるのは、診療報酬に関わる治療くらいです。診療報酬に関われば病院も認めるわけで、そうすると多くの会員が取得することにつながると思います。その他のCT、MRIなど特にはないですから取ったらそこで終わってしまう。病

院側が認めるようなことがあればより一層学んでいくと思います。医師会の専門医制度の様に学術団体で認証するような制度、診療報酬に反映させることは難しいかもしれないが、そういった確立したものを技師会、技術学会両団体が窓口となって認定機構を構築するのも良いと思います。そうすることによって、取得者も増え自ずと診療放射線技師のレベルも上がるのではないかと思います。

篠原会長：診療報酬に直結するのが一番いいかと思います。それともう一つは医療法で禁じられていた医療広告が出せるようになりますが、診療放射線技師で広告できるようなものはないのでできるような認定制度や資格にレベルアップしていけたらと思います。

白木副会長：そうですね。頑張っている人が施設で評価されるのが一番いいですよね。

多賀谷副支部長：そうですね。診療報酬につながることが最善ですよね。診療報酬に関わる治療が良い例です。実際現場では、治療は人材補充などスムーズに行えますし、施設側の反応が早いです。

白木副会長：確かにそうですね。



篠原会長



多賀谷副支部長

のローテーションなどで移動するので専念できないといったことになってしまいます。施設によって評価がまちまちですから、資格をとった人が一定の評価を受られるようにする認定資格制度を両団体で作っていくべきだと思います。

白木副会長：そうですね。認定資格に関しては、数多くありますが、それぞれ連携する団体が違ったり、評価するのが難しいですね。一本化は現実的ではないし、それぞれの団体が厚労省などに要望していくしかないのでしょうか。

佐藤研究教育担当理事：治療に関しては日本放射線治療専門放射線技師認定機構の元々の立ち上がりが技師会と技術学会、JASTROの3団体で一致団結して作り上げた経緯があります。国立病院ですと治療専門技師

の認定を有していると手当が3,000円付くようです。私の勤める施設は民間ですので、現在働きかけをしているところです。がん診療連携拠点病院の指定要件の中に専任の治療専門技師認定者が含まれていますので、そういったところからも働きかけをしていけたらと思っています。



佐藤研究教育担当理事

白木副会長：まだまだ教育に関してご意見はあるかと思いますが、両会の連携についてのパートでお話ししていただけたらと思います。次に両会各々の立場で技師の未来についてご意見をいただきたいと思います。

篠原会長：先ほど出ました検像とか読影の補助といいますか、われわれ一次読影といいますけども、その定義だと質の確保、それと業務範囲の拡大にもつながる疑義照会なども取り入れていかなくてはならないかと思います。それには当然責任も伴っていきますので、その自覚ももたなくてはいけません。また診療放射線技師法の抜本的改正を進めていかなくてはいけません。60年以上前にできた法律ですので、当然現状に合ってていないものもあるわけです。昨年の一改正、このことも大きなことだと思いますが、もっと抜本的な改正が必要だと思います。具体的には、第二十六条「医師又は歯科医師の具体的な指示…」とありますが、具体的な指示で撮影しているシーンはほとんどなく包括的な指示が現状です。こういった点を実態に合わせるといったことも必要だと思います。それから、自分の仕事に誇りを持てる、また技師を目指す人たちも夢を持てるような職業に今以上にならなければならぬと思います。自分の国を愛する様に、故郷を愛する様にそれと同じように職業も愛せなくてはいけない、そういった気持ちがないとひとを愛して患者さんに優しく接するということにつながってこない、つながりにくいのではないでしょうか。それとこれは職能団体を預かる身として不適切かもしれません、技師の資格の保有者が過度に過多状態であるべきだと考えています。意図的に足りない状況を作り出す、放置するというのは職能全体の質を考える時にはマイナスですし職能団体は衰退していくことにつながります。やはり、一定数の中から選定されるというのが健全なことだと思います。もちろんそれが著しく現場とかい離して採用の容易さから賃金レベルの低下になってはいけませんので、その辺は両刃の剣ではあります。

白木副会長：そうですね。看護師の定数配置といったように技師もあれば目安も付きやすいのかなと思います。



すが…。複数モダリティを技師が掛け持ちで担当されている施設もあると聞きます。大変ですよね。

一同：そうですね。

白木副会長：やはり育休代替要員などの人員の補充が難しいですよね。

飯田支部長：そうですね。パートを募集してもなかなか集まりません。

多賀谷副支部長：期間だけとなると余計ですね。私の施設は、放射線技術学科を有する大学の大学院に依頼して技師免許を取得している院生を紹介いただいておりますが、せっかく仕事を覚えて他施設に就職が決まると離れてしまう。実際、そのまま採用になった人もいるにはいるのですが…。

白木副会長：そうですね。そういう形で入ってきても仲良くなれば情が出てきますからね。その他にはご意見ありますでしょうか。

多賀谷副支部長：設置基準といいますか、技師の配置についてですが、医師、看護師、

薬剤師などは施設の規模によって定数が定められていますよね。それ以外のメディカルスタッフはないじゃないですか、これについて技師会的にはどういうお考えをお持ちでしょうか。

篠原会長：難しいですね。治療などの定数は必要だと思いますが、それ以外のモダリティですと装置に何名とか、病床数に何人といった看護師さんのような基準を設けるのは、施設の診療形態によっても必要とする人員に大きく幅が出てくると思いますので分けて考えなくてはいけないかと思います。

多賀谷副支部長：薬剤師もありますが、どういった基準で決められているのでしょうか。医師、看護師は解りやすいですが、院外処方がメインになったわけですから決まった定数を保持できたとすればその持つべき方を職能団体として参考にしていただきたい。

市川学術教育委員長：院内で薬を処方するには専門家を配置しなければいけないよってことですけども、エ

ックス線装置の場合は医師が代行できますからね。そこが弱いところですね。

多賀谷副支部長：医師の指示のもとという文言が影響しているのでしょうか。1,000床の病院が二つあっても業務量が違うのでしょうかが技師の数が全然違う。

葛西副会長：施設によって急性期と慢性期だったり、特化した診療科があるとかでだいぶ違いますからね。

多賀谷副支部長：ただ指標の様なものがあると雇いややすいですね。ぎりぎりの人員で業務する施設と余裕のある施設の差が補えると思います。そうすれば、技師の勤める場所も増えるかなと考えることもあります。

篠原会長：管理加算といったところでその装置専従の技師を置くといったような定数とまではいかないですが、多少そういった考えはあるかもしれません。定数確保がわれわれにとってプラスに働く部分はありますけども、間違えると過剰な人数になってしまうこともありますのでしっかり考えなくてはいけないかと思います。

多賀谷副支部長：そうですね。良いところと悪いところを加味しなくてはいけないです。

篠原会長：われわれの守備範囲がかなり多岐にわたっているというのもひとつかもしれませんね。

白木副会長：そうですね。多岐にわたるといいますと、今後チーム医療での技師の役割や立場はどのようにしていくのか、今も実践されている方は、おられると思いますが、している方とそうじゃない方との差が大きくなっています。やっている方は、ホットラインが入るとすぐさま救急にいって撮影業務以外の事も率先しておこなう姿勢がある。片や検査だけしかやらない。できれば診療放射線技師はチーム医療の中で撮影以外のこともサポートできて、そうすることで信頼関係が構築できる。そのような職種になってほしいなと思います。

多賀谷副支部長：極端な話ですが、昨年4月に改正がありインジェクターでの造影剤や抜針が認められましたが、技師による造影時のIVというのはどうなのかなと。現在は医師、看護師が行っていますけども、これができると職場環境は必ずいぶんと変化するかと思います。

双方ともお忙しいですから、われわれが将来的には可能になるといいな



市川学術教育委員長



多賀谷副支部長

思います。

篠原会長：昨年の改正前段階でそちらも要望を出しましたが、反対する勢力も存在しますので…。医師やその他の職種の特権を一気に可能にすることは難しいです。昨年の改正はそのための第一歩になると思います。海外のお話しが出ましたけども、ベトナムだったと思いますが技師が静脈注射も行っている。国によって資格制度や状況が違いますので何とも言えませんが少しづつ進んでいきたいと思います。

多賀谷副支部長：そうやって進めていけば、“医師の指示のもとで”といったところもだんだん変化して技師の判断でといったところまでくる可能性があるわけですから、その時の為に教育だったり制度を充実していくかなくてはならないと思います。

飯田支部長：ただ忘れてはならないのは、業務拡大していくってそれなりの責任を負わなくてはいけない。責任も大きく拡大してきますから。教育は勿論ですが事故に対する責任の意識づけをしっかりと行わなくてはなりません。

一同：そうですね。

篠原会長：医療現場における質と安全の確保をなおざりにしたまま、あれができるこれができるといったわけにはいきませんね。

市川学術教育理事：昨年の業務拡大を安易に受け止めている人もいるのではないかと思います。実際に自施設で昨年の4月から抜針をおこなっているのですが、講習会に出た者を主にさせてはいますがどうしてもそうじゃない場合もあるわけです。昨日、アルコールの過敏の有無を確認せずに抜針後アルコール綿で止血箇所を押されたところ患者よりクレームが出て、院内からは“ほら見ろ”といった声がでました。所属技師を集めて業務拡大になったから喜ぶだけじゃなくて、気を引き締めて行うようにと話をしました。統一講習会で講習をやっていますけども、医師や看護師以上に注視して注意して行わないと、一つミスが出た時に必要以上に大きく言わる危険性があります。注腸のカテーテル挿入もそうですが、今後重大な事故がなければいいなと思います。

篠原会長：自動車の免許を取ったからといって安全運転できるわけじゃないですからね。

市川学術教育委員長：肝に銘じておこなっていただきたいと思います。

白木副会長：さて、活発な意見交換がされていますがここで、今までの話題をふまえて最後に両会の連携についてお聞きしたいと思います。

多賀谷副支部長：まずは学術同士からですかね。

谷畠学術担当理事：そうですね。合同の学術大会が15年の歴史がありますので。

白木副会長：これは現状の看板企画ですよね。

谷畠学術担当理事：はい。次回16回目は東京支部が担当ということになっていますが、今

回から一歩踏み込んで企画の段階から協力し合い作ろうと思います。両会員の皆さまが何を求めているかをしっかりリサーチしたうえで良い企画をご提供できればと思っております。

また、両団体に所属している会員に対してのサービスは勿論の事ですが、どちらか一方の会員であっても良質な会員サービスが受けられるよう、執行部でしっかりと情報共有ができるように、両学術で良い方向性を出せたらと考えております。

葛西副会長：東京は年に一回合同での開催ですが、セミナーは勿論の事、総会なども一緒に開催するといった技師会と技術学会が一体になって行っている地方技師会もある様ですがどうでしょうか。

飯田支部長：地方の特色としてあるようですね。お伺いしてみると役員が双方の団体で重複しているといった背景もあり、それだけではないのでしょうか東北だったり九州だったりと多く見受けられます。私たちも第16回合同学術講演会に向け、また協力し合えるところはしていけたらと思います。

篠原会長：技師会は北海道から九州まで8つの地域に分かれています、先ほど仰られたように九州、中日本、中四国、近畿が技師会と技術学会のエリア枠が全く同じですね。その中で九州、中日本、中四国が会員や役員の重複などもあり合同でおこなっています。関東から北は微妙にずれていて、東京支部、関東支部、東北支部が違いますので少しやりづらいところではあります。ただ、これは日放技、技術学会本部のレベルの話ですが、両会それぞれの支部、地域の代表で一度集まって将来的な話し合いをする時期なんじゃないかと思っています。東京に関しましては、両会合同で学術講演会を15回行ってきたということは大変すばらしい伝統ですが、その中で思うのはそれぞれ片方だけに入会の方が多くいますので、両会とも会員の比率を増やしていくならなと思います。都内養成校の入学式や卒業式で前支部長にお会いした時にも毎回このような



谷畠学術担当理事



葛西副会長

話をしておりました。そういうことも、われわれが協力して今まで以上に努力していかなくてはならないかと思います。

白木副会長：今年の合同学術大会から進め方がより濃い形で始まりそうですが、その他の学術大会でもスペースやブースを出展するなど、両会でPRできたらいいのかなと思います。JJ（日放技、技術学会本部）はこの合同の後に立ち上がったものですけど、年2回懇談会を開催している様なのでTT（東放技、東京支部）も定期的にやっていたらどうでしょうか。

飯田支部長：JJは去年京都だったので今年東京でやりますね。TTいいですね。

篠原会長：まだまだ語りつくせませんが、本日のところはここまでとさせていただきます。両会にとっても、

皆さんにとっても、そして日本の医療のためにも素晴らしい年となりますよう祈念いたします。長時間にわたりありがとうございました。

白木副会長：今年の新春座談会は、日本放射線技術学会東京支部の首脳陣の方々をお招きして開催しました。まずは、支部長・会長より両会の方向性をお話しいただき、そのあと主に「診療放射線技師教育の在り方」「両会の連携」などについて意見交換をしました。ざっくりばらんな意見交換をする中、東京支部の皆さまとの絆も深まり実りある座談会となり、本会にとりましても良い新年のスタートを切ることができました。東京支部の皆さま、本日はありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

イエローケーキ

「ラジコンの祭典にて」

私の趣味はラジコン飛行機です。RC航空ページントという、群馬県太田市市営の尾島スカイポート（ラジコン専用飛行場）で行われているラジコン模型の祭典に毎年行っております。前日の夜から寝袋防寒具を持ち込み数人の仲間と会場入りして、その夜はラジコン談義を肴にお酒を飲んで盛り上がります。当日は祭典参加者の力作のラジコン飛行機などの出来栄えや飛行を観て楽しんでおります。ラジコンは大型化していくと翼長は3メートルを超えるような飛行機が多数になっており、ジェット機やジェットヘリなど模型ジェットエンジン（実物を小型化した物）を搭載しており、音などは本物と見紛うばかりです。

何かと問題になっておりますドローン（マルチコプター）も飛行しておりました。ドローンは多目的に使用でき、今後の活躍を期待したいです。また観客を見ますと、ここも高年齢化が進んでおり、10年後または20年後にはラジコンを趣味にしている人は少なくなると思います。

最近は何事もそうですが若い方がおりません、若者の参加を期待したいです。

ラジコン大好き

第49回日暮里塾ワンコインセミナー「基礎からの一般撮影」に参加して

帝京大学 放射線学科3年 伊藤佳奈恵

2015年9月30日に開催された「基礎からの一般撮影」に参加させていただきました。ちょうど病院実習中であり、一般撮影の実習を終えたばかりであったため、学んだことの復習や知識を深めるため、また大学で講義をしてくださっていた森先生の講義ということもあり、このセミナーに参加しました。

講義内容は、頭部、体幹部、四肢の撮影法、解剖やその撮影におけるポイントやコツを学生の私にも分かりやすく講義してくださいました。また写真や図を多く用いた説明で理解が深まりました。特に“なぜその角度なのか”や“なぜ屈曲させるのか”などの撮影法

の原理や、患者様に合わせた臨床での対処をお話しくださいましたため、普段の教科書のみの勉強では得られない知識となりました。また、実習病院とは異なる撮影法もあり、一般撮影にはさまざまな撮り方があり、奥が深いと感じました。

今回の講義で得たものを今後の学生生活、さらに技師になってから生かしていきたいと思います。ご講演いただいた森先生ありがとうございました。また、このような機会を設けてくださいましたスタッフの方々ありがとうございました。

診療放射線学科専任教員募集

東京電子専門学校

医療・コンピュータ・電子の総合学園、創立69年の伝統と4省認定校

募集対象者：診療放射線技師（臨床実務経験5年以上）、教育経験あればなお可

募集人員：若干名

学校名：東京電子専門学校

住所：〒170-8418 東京都豊島区東池袋3丁目6番1号

待遇：経歴、資格、前給等を考慮して本校規定により優遇

賞与（昨年度実績5.45月）、交通費支給

勤務・休日：9:00～17:00（実勤7時間）、週休2日（土日祭休）休出は代休有、半日有給制度有

社会保険：社会保険完備（私学共済）

宿舎の有無：なし

応募方法：履歴書（写）、職務経歴書、資格者証のコピー（必要なもののみ）、通勤可能な方、担当できる教科（可能であればお知らせください）

担当者：脇坂 哲夫 E-mail：wakisaka@tokyo-ec.ac.jp

TEL：03（3982）3131（大代表） FAX：03（3980）6404

中央区健康福祉まつりに参加しました

永寿総合病院 栗屋浩介

10月25日中央区健康福祉まつりが行われました。当 日は天気も良く大勢の区民が会場に足を運んでいました。

東京都診療放射線技師会からは男性10名、女性6名、計16名のスタッフが参加しました。

私は今回が2度目の参加です。昨年までは乳がんしこり体験、医療被ばく相談を主に女性技師を中心に行われており、私を含め男性技師の活躍の場は少ない印象でした。

本年は乳がんしこり体験は女性技師にお任せし、われわれ男性技師は今回初の医療画像のクイズを行いました。「これは体のどこの部分を写したX線画像でしょ

うか」「この画像の中でCTの画像はどれでしょう」といった質問をパソコンやプリントを使って行いました

これが思った以上の大盛況で、クイズ85名、乳がんしこり体験83名の方に参加いただきました。解説時にはみんな熱心に聞いてくれたのがとても印象的で、一般の方も医療画像に興味があるのだと感じました。

他のブースでも禁煙相談や健康相談、こころの健康づくりコーナー、また屋外では漫才やライブコンサートが行われており大変にぎやかでした。

大変充実した1日を過ごす事ができました。機会があれば、是非また参加したいと思います。



中央区健康福祉まつりに参加して

森山記念病院 前野亜希子

中央区健康福祉まつりに参加しました。今年で3回目の参加ですが、はじめは少し緊張していましたが、他病院の診療放射線技師さんとの交流も含めて、とても楽しく過ごす事ができました。

今回も以前同様に乳房の視触診の相談ブース担当で、天気も良くたくさんの来場者が来られました。近頃、乳癌について意識が高くなつたのか、乳房ブースではさまざまな相談を受けました。ひとり一人とお話しでき

る機会が大変貴重な時間となりました。その中で、多くの方がマンモグラフィー検診の大切さを強く認識しているように感じました。毎年開催される健康福祉まつりの成果だと思います。

一日を通して、まつりブースを廻り、お年寄りから子供まで沢山の方々が楽しく過ごしている様子がとても印象的でした。中央区健康福祉まつりに参加できて良かったと思います。



荒川クリーンエイド2015に参加して

東京大学医学部附属病院 中村浩英（第5地区委員）

荒川河川敷で毎年「ゴミを拾って生き物たちを守る」をテーマに、清掃ボランティア活動が行われています。今年は10月18日の日曜日、岩淵閑緑地にたくさんの近隣住民が集まり、少年野球チーム、消防団、町内会と老若男女が共に汗を流しました。われら東京都診療放射線技師会の会員も篠原会長を先頭に5人が参加し、気持ちよく半日の清掃活動ができました。

うす曇りで始まった清掃もお昼には秋空の晴天となり、上着を脱いでの作業となりました。活動に先立ち荒川区長のあいさつがあり、危険物等対応の注意事項、そして参加メンバーには区画割り当ての記された用紙が渡されました。合図とともにトングと軍手、分別袋を手に持ち場に分かれ、いよいよ活動開始です。

一見、たいしてゴミなどなさそうであった緑地から集められたその中には、自転車の残骸から古タイヤ、コンビニ袋に入った生活ごみまであって、ちょっとびっくりする場面もありました。植え込みに隠れたゴミを見つけた時には、嬉しい気持ちと残念な気持ちが入

り交じり複雑な心境です。それでも概ねきれいな状態が保たれており、ひと安心といったところでしょうか。

傍らの緑地にはBBQを楽しむキャンパーや釣り人もいて、のどかな休日を象徴する光景がそこにありました。清掃に参加した子供達には河川の水質調査体験も用意されていて、環境教育の場にもなっていました。

最後は集められたゴミと一緒に参加者全員で記念撮影。おいしい防災食とロゴの入ったレトルト食品の“おかゆ”と“クラッカー”をお土産にいただき、解散の運びとなりました。

また、当日にタートルマラソンも開催されており、河川敷を走る東京都診療放射線技師会員に応援を送りつつ帰路につきました。色とりどり華やかな服装のランナー、車いすで参加のランナー、仮装マスクランナーなど、さまざまなランナーが走り抜ける傍らを歩き、スポーツ熱も盛り上がっているなと感じる一日でした。参加された会員の皆さん、お疲れ様でした。



第6地区研修会を企画して

新葛飾病院 岡部博之

今回、高齢者との関わり方について、東京さくら病院リハビリテーション科の村島久美子氏をお招きして研修会をおこないました。今後日本はますます高齢者社会になることは間違ひありません。当院もさることながらどのような施設でも高齢者との付き合いはますます増えていくことが予想されます。われわれの仕事は患者さんの協力なくして行えないと考えております。私自身特別なレクチャーを受けて患者さんとの付き合い方、接し方の勉強をしたことがなく、先輩や他部署の方々の関わり方をみて独自に解釈し行つきました。また、後輩への指導も明確な方法論を伝えられず、指導する技師により伝え方が違っていたのが現状でした。今回は、同じコメディカルの立場からの身体に接するプロフェッショナルである理学療法士の方に取り組み・考え方をご拝聴したくご依頼いたしました。

講演内容はスライド講義と体験コーナーと2部構成で、まず認知症について知識を高めるため基礎講義を行つていただきました。一概に認知症といつてもいろいろなタイプがあることがわかりました。そして、認知症ケアにはさまざまな方法が提唱させていることも

知ることができました。また、患者さんとどのように接するのが良いのかなど実践の話も聞かせていただきました。『レツ・トライ』の体験コーナーでは、数例のシチュエーションをもとに、それぞれ2通りの接し方の体験をしました。とても感慨深い貴重なものとなりました。

ご教授いただいた中で1番に感じたことは、『不安を与えない、または和らげる方法』を常に意識して、患者さんとのコミュニケーションを図ることが大事だと云うことです。患者さんの状態ではもちろんシチュエーションによっても対応方法が変わつてくるので、常に患者さんの立場になりどのように接することが最善なのかを無意識のうちにできるように心掛けたいと思います。

今回、村島氏には、とても大事な情報・心構えを教えていただき大変勉強になりました。ありがとうございました。そして、お忙しい中ご参加いただいた皆さん、今後も実のある研修会を企画していきたいと思います。よろしくお願ひいたします。



講師：村島久美子氏



平成27年度 東京都がん検診センター 第2回乳がん検診従事者講演会のお知らせ

- 1 実 施 日 : 平成28年1月16日(土曜日) 14時から16時まで
- 2 会 場 : 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 102室(下図参照)
- 3 対 象 : 乳がん検診に従事している医師、臨床検査技師、診療放射線技師、看護師 等
- 4 受 講 定 員 : 先着150名程度
- 5 受 講 料 : 3,000円(当日お持ちください)
- 6 申 込 方 法 : ①メールアドレスをお持ちの方
当センターHP 講習会予約フォーム
(<http://www.tokyo-cdc.jp/kousyuu/kensyuu/asp.html>)からお申し込みください。
②メールアドレスをお持ちでない方
申込書をFAXにて下記までお送りください。
受講いただけない場合のみ、受講連絡先にご連絡いたします。
- 7 申 込 メ ケ : 定員に達し次第(当センターホームページをご確認ください)
- 8 テーマ及び講師

『マンモグラフィと超音波の総合判定』 独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター 高度診断研究部・放射線科 遠藤 登喜子 先生

乳房超音波検査が対策型乳がん検診に導入されるかは不透明ですが、任意型検診においては現在でも重要な役割を果たしています。検診においていずれかの検査でカテゴリー3以上の場合に要精査と判定されれば、要精査率が過剰に上昇し、検診のHarmが大きくなります。両者を総合的に判定し、より精度の高い検診を実現するため、日本乳癌検診学会総合判定委員会から「マンモグラフィと超音波検査の総合判定マニュアル」が発刊され、日本乳癌検診学会と日本乳がん検診精度管理中央機構との共催で講習会も予定されています。今回の講演ではマンモグラフィと超音波の総合判定について、症例を交えてお話しします。

《お申込み・お問合せ先》

公益財団法人東京都保健医療公社 東京都がん検診センター 研修担当: 藤澤
〒183-0042 東京都府中市武蔵台2-9-2
TEL: 042-327-0201 FAX: 042-327-0297
E-mail: togan@tokyo-cdc.jp URL: <http://www.tokyo-cdc.jp/>

《会場案内》



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立オリンピック記念青少年総合センター
URL: <http://nyc.niye.go.jp/>

■ 小田急線:

参宮橋駅下車 徒歩約7分

■ 地下鉄千代田線:

代々木公園駅(C02)下車

(代々木公園方面4番出口) 徒歩約10分

■ 京王バス:

新宿駅西口(16番)より 代々木5丁目下車
渋谷駅西口(14番)より 代々木5丁目下車



平成27年度 東京都がん検診センター
第2回乳がん検診従事者講演会 受講申請書

日時:平成28年1月16日(土) 14時~16時

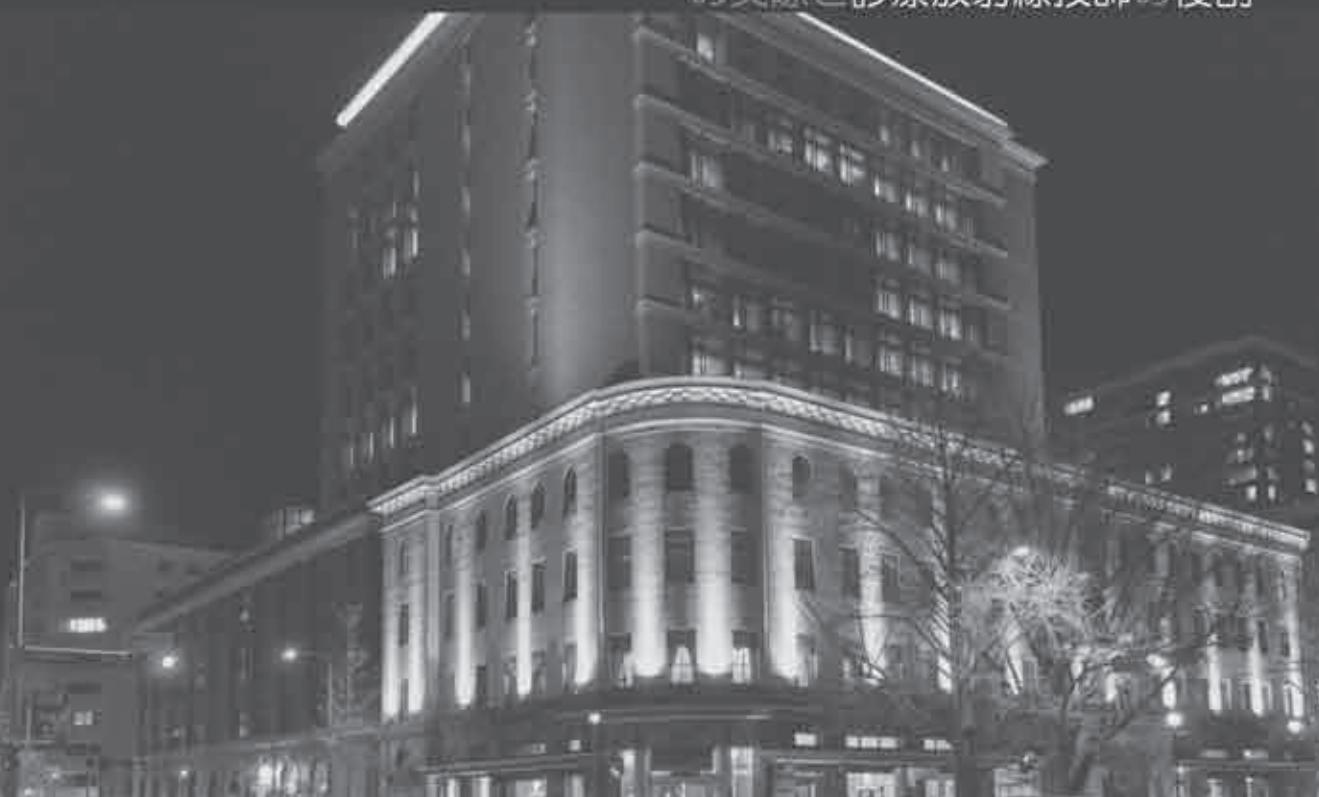
ふりがな 氏 名	
勤務先名称	
勤務先住所	〒 _____
電話番号	
FAX	
職 種	医師・診療放射線技師・臨床検査技師・その他()

※ 受講できない場合のみご連絡いたしますので、FAX番号をご記入ください。

第2回 ステップアップセミナー

- ステントグラフト内挿術 (TEVAR・EVAR)

の実際と診療放射線技師の役割



日時 平成28年1月9日(土) 14:20～18:00

場所 横浜情報文化センター 6F 情文ホール
(〒231-0021 横浜市中区日本大通11番地)

交通 みなとみらい線 / 日本大通り駅 3番出口直結

受講費 JSRT会員 1,000円 / 非会員 2,000円

他職種の方の参加
も歓迎いたします

募集定員: 200名 (先着順 定員になり次第募集終了となります)

募集 申込期間: 平成27年11月9日(月)～平成27年12月4日(金)

申込方法: 関東Angio研究会ホームページ (JSRT関東支部)

※詳細は裏面をご覧下さい。

JSRT関東支部 関東Angio研究会

第7回 ADCT研究会

日 時：2016年1月23日(土) 13:00-17:45 (受付開始 12:00 / 機器展示 12:00-17:00)
 場 所：東京大学 伊藤国際学術研究センター (伊藤謝恩ホール 396名) 東京都文京区本郷7-3-1
 会 費：研究会 事前登録 1,000円(当日登録 2,000円)

13:00-13:05 当番世話人挨拶 東京大学医学部附属病院 放射線部 井野 賢司

13:05-13:35 情報提供 東芝メディカルシステムズ株式会社

13:35-15:05 一般演題

座長：東千葉メディカルセンター 越智 茂博 / 三井記念病院 赤城 輝哉

「4D-CTAによるMatas Test～脳動脈瘤術前における血行動態評価～」

医療法人社団 清風会 五日市記念病院技術部 画像診断技術科 竹本 幸平

「Lung Subtraction 撮影のポイント」

慶應義塾大学 中央放射線技術室 鈴木 勝久

「新しい冠動脈サブトラクションCTA法の構築」

一般財団法人厚生会 仙台厚生病院 放射線部 芳賀 喜裕

「FIRSTを用いた冠動脈解析画像の評価」

広島大学病院 診療支援部画像診断部門 木口 雅夫

「4DCTによるエンドリーフタイプ診断」

平塚市民病院 医療技術部 放射線技術科 藤代 渉

「国内初となる心カテ領域へのIVR-CTシステム導入～IVR担当技師の新たな挑戦～」

大阪大学医学部附属病院 医療技術部 放射線部門 柳川 康洋

15:05-15:50 ポスター展示・機器閲覧・休憩

15:50-16:00 ADCT研究会からの報告 ADCT研究会 井田 義宏

16:00-16:50 特別講演1 座長：日本大学医学部附属板橋病院 放射線部 君島 正一

「ADCTによる小児CT検査について」

日本大学医学部 医学教育企画・推進室 附属板橋病院 小児科 神山 浩 先生

16:50-17:40 特別講演2 座長：東千葉メディカルセンター 放射線部 梁川 範幸

「画質を担保した線量最適化戦略」

NTT東日本関東病院 放射線部 部長 赤羽 正章 先生

17:40-17:45 次回当番世話人挨拶

◆ 研究会会員登録方法 ◆ 研究会ホームページより、事前登録をお願い致します。
 登録には、ADCT研究会への会員登録が必要です。 <http://adct.kenkyukai.jp>



◆ 最寄り駅およびバス停までの地図 ◆

本郷三丁目駅(丸の内線)徒歩8分

本郷三丁目駅(大江戸線)徒歩6分



【共催】ADCT研究会 / 東芝メディカルシステムズ株式会社 【後援】公益社団法人 日本放射線技術学会 東京支部



第39回 日本脳神経CI学会総会

The 39th Annual Meeting of the Japan Society for CNS Computed Imaging

2016年 1月29日金・30日土 会長 土屋一洋 (東京通信病院放射線科 部長)

会場 日経ホール 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル 副会長 塩川芳昭 (杏林大学脳神経外科 教授)

治療に直結した神経放射線診断の実践

シンポジウム、セミナー、多数の演題から最新の研究のトレンドを知る
教育講演、フィルムリーディングで基礎知識をブラッシュアップ/アップデート

演題登録期間:2015年8月4日火▶9月15日火

■連絡事務局 株式会社コンペックス内 〒106-0001 東京都港区6-7-12-1 TEL:03-6425-1602 FAX:03-6425-1603 E-mail:cnsi39@convex.co.jp

<http://cnsi39.umin.jp/>

News

1月号

前回議事録確認

前回議事録について確認を行ったが修正意見はなかった。

理事会定数確認

出席：19名、欠席：1名

会長挨拶

年末も近づいてきましたが、年末には例年同様に役員研修会があり、年明けには新春の集いもございます。皆さんの協力をいただきながら、公益社団法人としての責務を果たしていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

報告事項

1) 会長

- ・10月3日に鈴鹿で日放技の理事会が開催されました。前年度亡くなられた会員の方々の入魂式も行われました。理事会にて中澤会長より3点のお話があり、一つ目は統一講習会をしっかり進めていきましょうというお話。二つ目は京都で行われる第31回秋季学術大会を盛り上げましょうというお話。三つ目は基礎技術講習を推進したいというお話。以上3点に関して皆さまのご協力をよろしくお願い致しますというお話がありました。
- ・中澤会長と都内の技師養成学校を回り、技師学校の大学化へのお願いと技師法改正の説明をしてきました。技師会の立場や趣旨を説明して、技師教育は大学以上が望ましいということを推進していきたい旨をお伝えしてきました。
- ・現行の技師学校の設置基準に基づいて、現在まだ専門学校や短大がありますが、今後、設置基準を改正していくかないと、また新たな専門学校や短大が開校してしまう可

日 時：平成27年11月5日(木)

午後6時45分～午後8時00分

場 所：公益社団法人東京診療放射線技師会 事務所

出席理事：篠原健一、葛西一隆、白木 尚、石田秀樹、
関 真一、野口幸作、浅沼雅康、市川重司、
江田哲男、高坂知靖、高野修彰、安宅里美、
平瀬繁男、竹安直行、岡部博之、工藤年男、
飯島利幸、千葉利昭、鈴木晋

出席監事：乙井不二夫、野田扇三郎

指名出席者：齊藤謙一（第1地区委員長）、鎌田修（第8地区委員長）、今野重光（第10地区委員長）、崎浜秀幸（第13地区委員長）、内山秀彦（第14地区委員長）、原子満（第15地区委員長）、富丸佳一（第7地区）、矢野孝好（経理委員）、河内康志（総務委員）、雨宮広明（総務委員）、中嶋直人（庶務委員）、大脇由樹（総務委員）

欠席理事：藤田賢一

議 長：篠原健一（会長）

司 会：葛西一隆（副会長）

議事録作成：大脇由樹

能性があります。実際に去年、新たな技師学校が短大で申請が出されていた事例が一件ありました。診療放射線技師の立場を保証するためにも、診療放射線技師は大卒以上という立場を明確にして、学校の設置基準の見直しに取り組んでいく必要がありますので、ご協力お願い致します。

2) 副会長

葛西副会長

- ・活動報告書に追加なし。
- 白木副会長
- ・活動報告書に追加なし。

3) 業務執行理事

総務：石田理事

- ・平成28・29年度選挙管理委員が選出され、栗屋浩介（城東支部）、比内聖紀（城西支部）、北岡勇人（城南支部）、關良充（城北支部）、篠田浩（多摩支部） 以上5名に決定
- ・レントゲン週間の参加スタッフが選出され、白木尚（副会長）、崎浜秀幸（多摩支部）、岩田雄介（城南支部）、石田雅彦（城南支部） 以上4名に決定

経理：関理事

- ・活動報告書に追加なし。
- 庶務：野口理事
- ・活動報告書に追加なし。

4) 専門部委員会

- ・活動報告書に追加なし。

5) 支部・地区委員会

- ・活動報告書に追加なし。

6) 特別委員会等

- ・活動報告書に追加なし。

7) その他・研修センター申請・事業報告

・活動報告書に追加なし。

8) 中間監査報告

乙井監事より平成27年度中間監査の報告がなされた。

議 事

1) 事業計画申請の件

①第8回MRI集中講習会

「MRI専門試験対策講座」

平成28年2月6日（土）14：00～18：30 東京都診療放射線技師会研修センター開催について審議した。

【承認：19名、保留：0名、否認0名】

②平成27年度城南支部研修会

「小児放射線科医が求める臨床画像～読影補助業務のためのチェックポイント」

平成28年1月22日（金）19：00～20：45 帝京大学医学部附属溝口病院 病院研究棟6階開催について審議した。

【承認：19名、保留：0名、否認0名】

③第1地区 地区研修会

「CTC検査の実際」

平成28年2月19日（金）19：00～20：00 東京通信病院 管理棟 5階 小講堂開催について審議した。

【承認：19名、保留：0名、否認0名】

④第11地区 地区研修会

「MRI入門 ①ガドリニウム造影剤入門②頭部MRI入門」

平成28年2月10日（水）18：30～20：30 東邦大学医療センター大橋病院 教育棟1F臨床講堂開催について審議した。

【承認：19名、保留：0名、否認0名】

⑤平成27年度第4回業務拡大に伴う統一講習会（南関東）

平成28年1月16日（土）13：50～17：30

平成28年1月17日（日）8：25～17：10 JR東京総合病院開催について審議した。

【承認：19名、保留：0名、否認0名】

⑥平成27年度第5回業務拡大に伴う統一講習会（南関東）

平成28年2月27日（土）13：50～17：30

平成28年2月28日（日）8：25～17：10国家公務員組合共済連合会 立川病院開催について審議した。

【承認：19名、保留：0名、否認0名】

⑦平成27年度第6回業務拡大に伴う統一講習会（南関東）

平成28年3月5日（土）13：50～17：30

平成28年3月6日（日）8：25～17：10 東京都診療放射線技師会研修センター開催について審議した。

【承認：19名、保留：0名、否認0名】

2) 第7地区委員承認について

新地区委員1名について審議した。

【承認：19名、保留：0名、否認0名】

3) 入退会に関する件

10月の入退会について審議した。

新入会 17名、退会5名

【承認：19名、保留：0名、否認0名】

地区質問、意見に関する事項

・事前資料にて地区質問、意見を求めた。

【第2地区】

日放技からのレントゲン週間などの協力依頼など、年間のスケジュールが早く分かっているようであれば、早めの周知をお願いします。

篠原会長：日放技の方に早めに周知して頂けるように日放技の理事会でお話しておきます。

【第12地区】

統一研修会の静脈注射講習受講済み以外の方の講習開始時期はいつ頃になるのでしょうか

野口理事：全国に静脈注射を受講した方々が5,000人以上いるため、今年度は静脈注射受講者を優先していくという方向で進めています。日放技の事業のため、東京都の事情だけで決めることはできず、全国の状況次第で決めていくこととなります。日放技と密に連絡を取りながら、他の県の状況を加味した上で判断となりますのでご了承ください。

連絡事項

1) 渉外委員会

11月3日に秋の叙勲の発表があり、佐々木研究所付属杏雲堂病院 元技師長 鹿野和知様が瑞宝双光章を受賞されました。

2) 総務委員会

・12月5日に日光にて開催される役員研修会に関してですが、まだ宿に若干の空き（10人ほど）があります。一週間前までであれば変更可能ですので、皆さまお誘いあわせの上ご参加ください。当日は15時から講演会があり、続いて16時から第8回理事会開催の予定でいます。宿のチェックインは15時からとなりますが、講演会が15時からですので、理事会が終わってからのチェックインとなります。早くおいでの方は朝9時には研修室が開場していますので、そちらで待機願います。交通手段に関してですが、駅から徒歩では25分程度かかりますので、ご注意願います。駐車場はあります。

・12月9日、14時から15時まで日比谷公会堂で国民を守る総決起集会が開催されます。日放技からの参加依頼がきておりますが、東放技では各支部2名以上の参加を目標としています。締め切りは11月17日となっておりますので、各支部ご相談の上、石田総務委員長までご連絡をお

願い致します。

2) 編集委員会

・会誌1月号は年末年始休暇の関係で原稿の締め切りを11月末着とさせていただきますのでよろしくお願い致します。理事会申請前のものに関しましては、掲載予定での受け付けを致します。

3) 学術委員会

・第18回メディカルマネジメント研修会

11月12日に労働衛生コンサルタントの先生にきていただいて医療訴訟についてお話をさせていただきますので、ぜひご参加お願い致します。

4) 第6地区

「認知症患者への関わり方」を開催いたしますので、ご参加お願い致します。

5) 広報委員会

OOTAフェスタが例年通り開催されます。骨密度もやりますので、ぜひ皆さまのご協力お願いいたします。

6) 第3地区

11月19日に東京医大病院で第3地区研修会を開催いたし

ますので皆さまのご協力をお願い致します。

7) 第4地区

11月27日に研修会「Exposure Indexの使用方法と注意点」があります。済生会中央病院で行いますので、ご参加お願い致します。

8) 京都での東京メンバー情報交換会

野口理事：京都で秋季学術大会があります。初日に日本診療放射線技師会の情報交換会があります。翌日の日曜日は東京都の情報交換会がありますので参加のほど宜しくお願い致します。

今後の予定

事業予定表のエクセルシートについて、枠が塗られているものは事業申請されているものです。塗られていないものは事業申請がされておりません。担当者は事業申請状況を確認していただき、石田総務委員長まで連絡をお願いします。

以上

患者さんに 優しいあたたかさを…

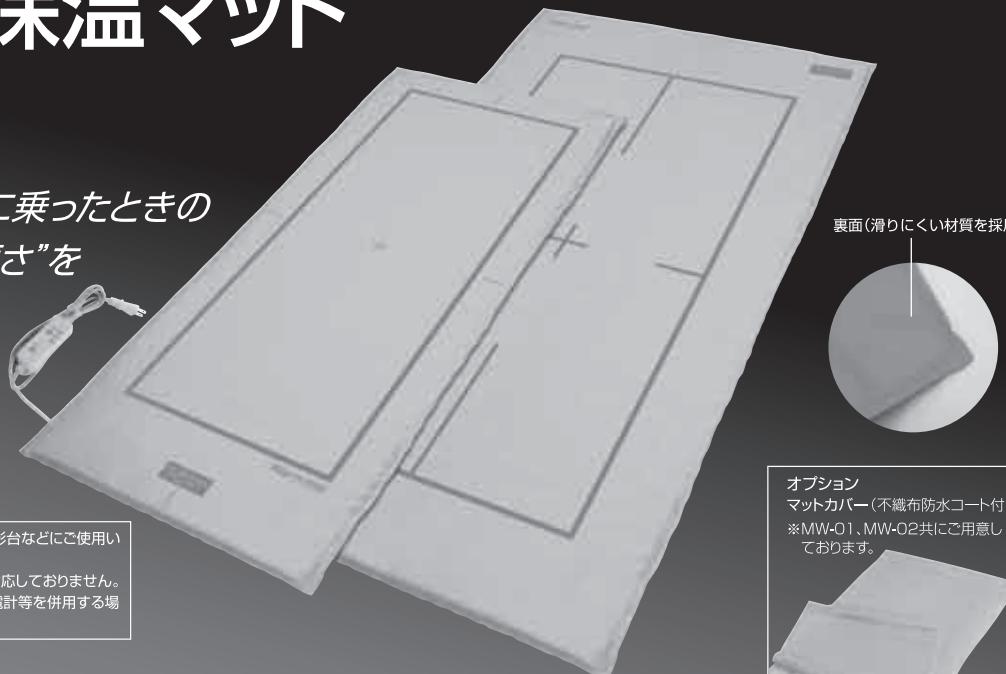
MORIYAMA

寝台用保温マット

薬事非該当商品

患者さんが寝台に乗ったときの
“ヒヤッとした感”と“硬さ”を
緩和します。

カーボン面状発熱体の
採用により、マット面全体に
均一な保温性と、優れた
X線透過性を実現しました。



WARM MAT
for Patient comfortable

※カタログをご希望の方は、下記の弊社営業部宛て請求ください。

MORIYAMA
MEDICAL EQUIPMENTS
SINCE 1954

株式会社森山X線用品

MORIYAMA X-RAY EQUIPMENTS CO., LTD. http://www.moriyama-x.co.jp E-mail info@moriyama-x.co.jp

営業部/〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目24番11号 TEL.03-3811-5811(代) FAX.03-3811-5484

本社/〒123-0873 東京都足立区扇1丁目52番12号 TEL.03-3898-3151(代) FAX.03-3898-3510

平成27年度10月期 会員動向

(平成27年10月)

総会員数		正会員					
年月	月末数	会員数	新入	転入	転出	退会	
26年度集計	2088	2088	149	32	19	78	
H27.4	2099	2099	13	4	1	5	
H27.5	2073	2073	27	3		56	
H27.6	2090	2090	15	3		1	
H27.7	2115	2115	26			1	
H27.8	2121	2121	9	2	1	4	
H27.9	2137	2137	19			3	
H27.10	2149	2149	17	1	1	5	

新卒新入=★

10月度	新入会(17名)	石川 丈留	長久保病院	13 地区	★
		清塚 えりか	昭和大学藤が丘病院	15 地区	★
		中里 祐介	みさと健和病院	16 地区	★
		飯島 敏明	永寿総合病院	2 地区	再
		白川 裕唯	昭和大学藤が丘病院	15 地区	★
		小熊 美央	昭和大学病院	8 地区	
		林 智子	出版健康保険組合診療所	1 地区	
		半田 千波	昭和大学病院	8 地区	★
		緑川 裕梨	順天堂大学医学部附属順天堂医院	5 地区	
		古澤 友貴	総合高津中央病院	15 地区	★
		櫻井 和明	武藏野赤十字病院	13 地区	
		吉田 美香	東京西徳洲会病院	13 地区	
		鈴木 直弥	南町田病院	13 地区	
		菅谷 正範	日本医科大学附属病院	5 地区	
		町田 佳士	キヤバン株式会社	8 地区	
		滝沢 俊也	青梅市立総合病院	13 地区	
		石橋 徹	帝京大学	9 地区	
転入(1名)	尾松 美香	放射線医学総合研究所	14 地区		
転出(1名)	小向 広貴	メディカルスキャニング池袋 → 岩手県へ	9 地区		
退会(5名)	長壁 周平	新東京病院	14 地区		
	國定 忠彦		10 地区	死去	
	五十嵐 義裕	創価学会・創聖健保診療所	7 地区	死去	
	川内 隆	出版健康保険組合診療所	1 地区		
	山本 昌司	森山記念病院	7 地区		

学術講演会・研修会等の開催予定

日時、会場等詳細につきましては、会誌でご案内しますので必ず確認してください。

平成27年度

1. 学術研修会

☆第14回ウインターセミナー

平成28年1月23日（土）

2. きめこまかな生涯教育

第57回きめこまかな生涯教育

平成28年3月19日（土）

☆3. 日暮里塾ワンコインセミナー

第52回日暮里塾ワンコインセミナー（第12地区研修会合同開催）

平成28年1月21日（木）

第53回日暮里塾ワンコインセミナー

平成28年2月18日（木）

4. 集中講習会

第8回MRI集中講習会

平成28年2月6日（土）

☆5. 支部研修会

城南支部研修会

平成28年1月22日（金）

城西支部研修会

平成28年2月24日（水）

6. 地区研修会

第12地区研修会（第52回日暮里塾ワンコインセミナー合同開催）

平成28年1月21日（木）

第11地区研修会

平成28年2月10日（水）

第1地区研修会

平成28年2月19日（金）

第2地区研修会

平成28年2月26日（金）

第8地区研修会

平成28年2月27日（土）

第5地区研修会

平成28年3月2日（水）

第6地区研修会

平成28年3月5日（土）

7. 特別委員会研修会

災害対策委員会研修会

平成28年3月12日（土）

8. 地球環境保全活動

荒川河川敷清掃活動

富津海岸清掃活動

関連団体

平成27年度第3回関東Angio研究会（第2回ステップアップセミナー）

平成28年1月9日（土）

平成27年度東京都がん検診センター 第5回マンモグラフィ研修会（ポジショニング入門）

平成28年1月14日（木）

平成27年度東京都がん検診センター 第6回マンモグラフィ研修会（ポジショニング入門）

平成28年1月15日（金）

平成27年度東京都がん検診センター 第2回乳がん検診従事者講演会

平成28年1月16日（土）

平成27年度第4回業務拡大に伴う統一講習会

平成28年1月16日（土）～17日（日）

第7回ADCT研究会

平成28年1月23日（土）

第39回日本脳神経CI学会総会

平成28年1月29日（金）～30日（土）

平成27年度第5回業務拡大に伴う統一講習会

平成28年2月27日（土）～28日（日）

平成27年度第6回業務拡大に伴う統一講習会

平成28年3月5日（土）～6日（日）

☆印は新卒かつ新入会 無料招待企画です。

（新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう）

公益社団法人 東京都診療放射線技師会 研修会等申込書

研修会名	第 回	
開催日	平成 年 月 日() ~ 月 日()	
会員/非会員 (必須)	<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員 <input type="checkbox"/> 一般 ※ 日放技会員番号(必須) [] <input type="checkbox"/> 新卒かつ新入会の方はチェック	
所属地区	第 地区 または 東京都以外 [] 県	
ふりがな		
氏名		
性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	
連絡先	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 施設 ⇒ 施設名 []	
	TEL (必須)	
	FAX	
	メール (PCアドレス)	
備考		

FAX 03-3806-7724
 公益社団法人 東京都診療放射線技師会 事務所

[様式 3]

登録事項変更届

公益社団法人東京都診療放射線技師会 殿

公益社団法人日本診療放射線技師会 殿

会員番号					
氏名	印				
氏名(カタカ)					
性別	男性・女性				
生年月日	昭和	平成	年	月	日生
メールアドレス					

下記のとおり、登録事項の変更をお願い申し上げます。

□氏名の変更

改姓(変更後の氏名)	
------------	--

□送付先変更

現在の送付先	勤務先・自宅
新送付先	勤務先・自宅

□住所等の変更

新勤務先	勤務先名	部署
	勤務先所在地	〒一
	電話	
旧勤務先		
新自宅	現住所	〒一
	電話	
旧自宅住所		

□その他

通信欄	
-----	--

受付
確認

平成年月日
平成年月日 印

Postscript

東 放技会員の皆さん、新年明けましておめでとうございます。今年も「東京放射線」をよろしくお願い申し上げます。

さて今年の「東京放射線」の表紙の色はいかがでしょうか?ここ数年は表紙のデザインは変更せず色のみを変えてお届けしております。この色は毎回前の10月半ばから11月に掛けて編集委員会で決めています。ここ数年で使用した色や来年のトレンド等を考慮します。しかし委員会に置いてある色見本が古く色褪せがあることやメール添付で配信されたサンプルを試しに印刷すると各自のプリンターで微妙に印象が異なり、なかなか意見がまとまりません。最終的には委員の多数決で決めますが、実際に表紙に使う紙に印刷されてはじめて確認できます。ですから編集委員は1月号の配送を期待と不安を持って待っています。

以前、自動車販売店で短期間しか販売しなかった車体色の場合その車の色を見ただけで車の年式がわかると聞き「さすがプロ」と思ったことがあります。東京放射線の編集プロは会誌の色を見ただけで何年の会誌

なのかわかるのかもしれません。私はまだその域に達していませんが…

会員の皆さんにとって今年が良い年となりますようお祈り申し上げます。 (yamato)

第 31回日本診療放射線技師学術大会(京都大会)に参加された皆様お疲れ様でした。参加会員2085名、非会員、一般、海外からの参加者を含めると2526名の参加者がおり、盛会となりました。演題数も過去最高で500演題を超ました。

期間中に東京都診療放射線技師会の呼びかけによる懇親会も開催されました。この懇親会も今年で5回目を数え、東京都のみならず全国から参加者が集まり年々参加人数も拡大しております。今年は海外からの方も参加していただき、グローバルな懇親会になりました。改めて東京のパワーを感じました。

来年は9月に岐阜で開催されます。皆さん、ぜひ学術大会とともに、この懇親会にもご参加いただけたらと思います。

〈すえぞう〉

■ 広告掲載社

コニカミノルタヘルスケア(株)
東京電子専門学校
東芝メディカルシステムズ(株)
(株)日立メディコ
富士フィルムメディカル(株)
(株)森山X線用品

東京放射線 第63巻 第1号

平成27年12月25日 印刷 (毎月1回1日発行)

平成28年1月1日 発行

発行所 東京都荒川区西日暮里二丁目22番1 ステーションプラザタワー505号

〒116-0013 公益社団法人 東京都診療放射線技師会

発行人 公益社団法人 東京都診療放射線技師会

会長 篠原 健一
編集代表 浅沼 雅康

振替口座 00190-0-112644

電話 東京 (03) 3806-7724 <http://www.tart.jp/>

事務所 執務時間 月～金 9:30～17:00

案内 ただし土曜・日曜・祝日および12月29日～1月4日までは執務いたしません

電話・FAX 東京 (03) 3806-7724

編集スタッフ

浅沼雅康
内藤哲也
岩井譜憲
森美加
中谷麗
柴山豊喜
平田充弘
高橋克行